

聖徒の道

6 1980



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供の頁編集：コニー・ウィルコックス
デザイナー：ロジャー・ギリング

も く じ

予言者の言われることには..... N・エルドン・タナー..... 1
議論の余地はない

質疑応答..... 3

人生の使命..... ジョン・H・グローバーク..... 6

盲人によって開かれた理解の眼...アーサー・S・アンダーソン..... 8

夫婦の伝道..... マービン・K・ガードナー..... 11

医者にかかる前に..... スザンヌ・ダンドイ..... 18

両親の教え..... エズラ・タフト・ベンソン..... 21

おとうさんといっしょ..... 22

土地どろぼう..... 26

すべての戒めに従いなさい..... H・ケント・ラプリー..... 29

目的ある人生..... H・パーク・ピーターセン..... 32

模範の力..... チャールズ・A・ディディエ..... 34

危険に備えて..... アーチャー・M・ブラッガー..... 36
今決心しておきなさい

荷車いっぱい^{まっぴ}の捧げ物..... クリス・ジェンセン..... 38

ローカル・ニュース..... 44

表紙の説明

アリゾナ・テンピ伝道部で伝道するトーマス・シュープ、ミルドレッド・シュープ夫妻。

裏表紙の説明

〔上の写真〕 グレープフルーツの枝を刈り込んだ後、くつろぐラバーン・ウイルコックス長老と奥さんのイナ姉妹。

〔下の写真〕 福祉活動宣教師のラバーン・ウイルコックス長老(左)。

聖徒の道 6月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約1,700円 1部150円
海外予約1,700円

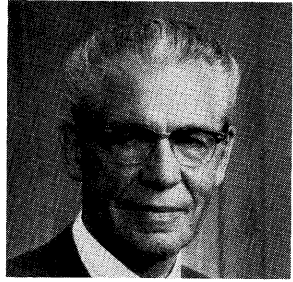
INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0460 JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

予言者の言われることには 議論の余地はない

第一副管長
N・エルドン・タナー



先頃、教会の全女性を対象としたファイア
サイドが開かれ、その会で中央若い女性
会長のエレイン・キャノン姉妹が次のように
述べました。「予言者の言われることには、議
論の余地はありません。」（「聖徒の道」1979年
2月号, p.157）

何の飾りもない簡単な言葉ですが、私たち
すべての者にとって靈的に深い意味を持つ言
葉であり、私は深い感銘を覚えました。私は
どこに行っても、人々にこのように申し上げます。「予言者に従いなさい」と。主が神権時
代を通じてこの地上に予言者を置かれたの
には、ほかにどのような理由があるでしょうか。
神は限りない知恵により、神の子らの生命と
救いの計画の一部として、従うべき詳細な計
画と針路を示し、その行く手を守る指導者を
与えて下さいました。そして私たちが基を築
き、様々な技術を身に付けて、永遠の我が家
に帰るのに必要な準備をするために教会とい
う組織を与えて下さいました。

そのようなわけで、神が人のために計画さ
れたことを何の助けがなくてもできるなどと
考えるのは愚かなことです。それはちょうど、
生まれたばかりの赤ん坊に親や周囲の人々の
世話やしつけなしにひとりで歩き、話し、食
事をし、衣服を着ることを覚えるよう期待す
るのと同じで、理に合わないことです。赤ん
坊はそのように世話をしないで放っておくと、

すぐに死んでしまいます。

私たちにも同じことが言えます。福音とい
う、神がその子らのために備えられた計画を知
らず、また理解もしなければ、私たちは救い
に必要な律法に従って生活することはできま
せん。したがって、靈の訓練を怠り、予言者
たちの警告の聲に耳を貸さず従わない人は、
靈の死を受けるでしょう。

それなのに、なぜかくも多くの人々が予言
者の勧告に対して反対の声を挙げ、自分たち
をみじめな様、死にさえも至らしめるものに
固執するのか、理解に苦しみます。ひとつの
例として、知恵の言葉について考えてみまし
ょう。福音が回復され、教会が組織されて間
もなく、主は予言者ジョセフ・スミスに、現
在私たちが知恵の言葉と称しているひとつの
啓示を与えられました。この啓示は、茶、コ
ーヒー、アルコール性飲料、たばこは人間の
ために良いものではないので、聖徒たちは摂
取しないようにという訓告でした。

これは、当時としてはまったく革命的なこ
とでした。なぜなら、これらの物を摂取して
も健康に有害であるとは考えられていなかった
からです。この啓示が与えられてから何年
もの間、害がないとされていた物を断ってい
たことで、モルモンは人々から変わり者と思
われていました。その後、科学者によってた
ばこの持つ多くの有毒性が発見され、今日で

はたばこをはじめとして茶、コーヒー、アルコール性飲料の摂取によって引き起こされる健康上の危険がますます明らかにされています。胎児に及ぼす危険についても警告されるようになっていきます。

末日聖徒は、科学の手でその言葉の信憑性¹⁷⁴³が証明されなくても、予言者の言葉を素直に受け入れられるようであればなりません。導き手として教会の頭に生ける予言者をいただいている私たちは何と幸福でしょう。予言者の勧告に聞き従う人はすべて、約束された祝福にあずかるでしょう。その祝福は、受け入れなかった人は到底味わうことのできないものです。

今日私たちの周囲には、論争の種になっている問題が数多くあります。しかし、そうした論争について自分の言い分ばかりを主張する人に実行可能な、あるいは穏やかな解決策は望めそうもありません。私たちに神の導きが必要なことはだれの目にも明らかです。しかしながら、私たちの中にこの世の諸々の問題と解決に導くことのできる神の予言者が実在するという事実を、世の人々が知らず、また受け入れようとしないことは、まったく悲しいことです。

忠実な末日聖徒にはそのようなジレンマはありません。予言者の語る言葉が主から下されたものであり、教会幹部全員の同意を得ていることを知っているからです。教会幹部は皆、将来を見通す力を持った高潔な人々であり、自ら神との一致を保つように努力しています。教会幹部は、一部の人々が考えているように、ただ盲目的に従ったり、自分で考え話す自由意志もなく行動しているわけではありません。私たちはそれぞれ天父への祈りを通して、自分の選んだ道が神の目に適っているという確信を得ることができるとのことです。

今日、道徳上の問題に関する論争が世の中

を混乱させていますが、なぜこのような論争が起こるのでしょうか。世の初めから、神は結婚、離婚、家庭生活、子供を愛すること、不道徳、純潔、徳、女性の貴く気高い役割について御自身の立場をきわめて明確にしておられます。神は今日もその予言者を通して、これらの問題に関する新旧約聖書のはっきりとした教えを繰り返し授けておられます。いつの時代にも、どこにおいても、主のみ言葉から離れる時に災いが起きることは歴史が証明しています。文明が墮落した時、そこには全体的にも個人的にも滅亡があり、泣き叫ぶ声と大きな悲しみがあり、飢饉と疫病がありました。狂喜したのはサタンとその軍勢だけです。サタンは道徳問題に関して論争を生む親です。サタンは神の目的を妨害しようと誓っています。人を欺き、たくらみを助長する時を今か今かと待ち、自分に従う者に報いとしてこの世の富を約束するのは、ほかならぬサタンなのです。

そして、この世の富を得るために多くの人が道徳問題の論争に明け暮れています。酒類やたばこの製造業者、ポルノに関係のある業者は、健康を害するそれらの品々を販売し、巨万の富を得ています。子供のポルノがその何よりの証拠ですが、子供をそのように食物にする親がいることは実に嘆かわしいことです。母親がこの世の楽しみや仕事を家庭外に求めているために、かまってもらえず野放しにされている子供もいます。また、多くの父親は立身出世を第一にして、妻子の幸福にはあまり心を配っていません。

しかし、私たちはこの点に関して全面的に心を入れ替える必要があります。私たちは神と富に兼ね仕えることはできないのです。さてあなたはどちらに仕えますか。予言者の言われることには議論の余地はありません。

質 疑 応 答

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



ホーマー・エルズワース博士
(産婦人科医、元中央メルケ
ゼデク神権委員会の委員)

「健康上の理由がない限り、私たちはできるだけ多くの子供を年々とも産むべきでしょうか。『福音に則した家族計画』というようなものはないのでしょうか。」

私は活発で忠実な末日聖徒の女性から、私の専門外ではありますが、このような質問をよく受けます。これは、出産可能な年代にあるほとんどの夫婦が幾度となく自問してきた事柄かもしれません。そこで、私はこの基本的な問題に適用できる原則と心構えについて、私の考えを述べてみたいと思います。

私たちは幸いにも、救いの計画の基本的な事柄について詳しく教えられています。すな

わち、人がこの地上に来たのは、完成に向かって進歩成長し、試しを受けるためです。その過程で私たちは結婚し、天父の霊の子供たちに肉体を与えるのです。これが基本となる教えです。この真理に照らして考えてみると、子供をもうけ、家族を持つことは祝福であって、私たちの霊的な義務でもあるということがわかります。私はこの教会の前向きな考え方をうれしく思います。私たちの目標として積極的な良い面が強調されていることに、私は深い感銘を覚えます。

私は救いの計画の中の最も基本的な原則が自由意志であると知っていることに感謝しています。自由意志を行使することは非常に重要なことなので、天父はすべての霊の子供から選択の権利を奪うよりは、3分の1の霊から特権を取り上げる方をよしとされました。自由意志の原則は、この試しの生涯を正しく送るために欠くことのできないものです。私たちは人生の中でいろいろな決定を下しますが、教会の手引きや集会、あるいは聖典だけでは、はっきりとした答えを出すことができないような原則の応用が随所に見られます。

私たちの成長は、選択の余地ある事柄を熟考し、慎重に事態を研究し、主からの靈感を求めるとき、その結果としてもたらされるのです。これが福音の計画の核心であると思います。主から靈感を受ける予言者は、神の教えを述べる時、各個人の自由意志が尊重されるという普遍的な計画を侵したりはしません。むしろ、かなり選択の自由が認められる広範

困な指針を与え、その中で教えを述べようとします。

ここで、すでに亡くなられたある大管長が流産した自分の娘を病院に見舞った時の話を御紹介しましょう。

彼女には8人の子供があり、年齢も40歳を越えていました。そこで彼女はこう尋ねました。「お父さん、もう子供を産むのを止めてもいいかしら。」すると大管長は答えて言いました。「それは私に尋ねることではない。おまえとおまえの夫と、天の御父とで決めることだよ。おまえたち夫婦が心安らかに天父とお会いして、自分たちは最善を尽くしました、一生懸命に努力しましたと言えるなら、止めるのもいいだろう。しかし、それはあくまでも、おまえたち夫婦と天父との間のことなんだよ。私には、天父にお会いした時にお話しなければならない自分の問題がたくさんあるからね。」この話から明らかなように、子供を産む時期やその人数について、またこれに類するあらゆる問題と疑問について決定を下す時は、その前に夫婦でよく話し合い、祈ることが必要です。

私たちがどのような特殊な状況下に置かれようとも、正しい決定を下そうとする時に必ず役立つ基本的な物差しとなるものがあります。それは「利己的ではないだろうか」と問うてみることです。私は、ほとんどの罪は利己心から生じると考えています。什分の一を納めないのは、利己心があるからです。姦淫を犯すのは、利己心があるからです。不正直なのは、利己心があるからです。聖典の中で、主は利己心のある人々を何度も懲らしめておられます。したがって、家族の問題に関しても、自己中心的な考えや物質欲から子供の数

を制限しようとする人は、利己心の上に自分の人格を築き上げていると言えます。聖典が明らかにしているように、これは日の光栄の王国を受け継ぐ人の特質ではありません。私たちは自らの心をよく分析して、何が自分をそうした行動へ駆り立てるのか突き止める必要があります。時には浅薄な動機や口実がその原因となっていることもあるでしょう。

しかし、その一方で、幾つかの重要な観点から問題を検討することも恐れてはなりません。父親や母親の肉体的および精神的健康、子供の基本的な必要を満たす両親の能力、その他様々な角度から検討を加えることが必要です。夫婦がよく祈り、何らかの個人的な理由により直ぐに子供を産むのは賢明でないと判断したとしましょう。この場合、医学的あるいは肉体的な影響を度外視すれば、子供を産むのをある期間延ばすのに、どんな方法を用いようと大して違いはありません。もちろん禁欲もひとつの方法です。しかしこれには他の方法と同様に副作用があります。時には夫婦の関係に害を及ぼすことさえあるのです。

医者である私は、精神衛生面で問題のある患者を時々治療します。彼らの症状は実生活の様々な面と深くかかわっていますが、そのような治療に携わるたびに感銘を新たにすることがあります。それは、過去および現代の予言者が、子供をもうけることが結婚の唯一の目的であるとは決して教えていないということです。予言者の教えによれば、肉体的な交わりは結婚生活における愛の絆を強め、夫婦の一致を促す強い力を生じます。これは夫婦に与えられた神の正しい賜です。使徒パウロは次のように述べています。

「妻は自分のからだを自由にするこはで

きない。それができるのは夫である。夫も同様に自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは妻である。」

パウロはさらに続けています。「互いに離れてはならない。ただし、合意の上で断食と祈りに専心するために、しばらく相別れ、それからまた一緒になることは、さしつかえない。そうでないと、自制力のないのに乗じて、サタンがあなたがたを誘惑するかもしれない。」(靈感訳Ⅰコリント7:4-5より和訳)

結婚生活における禁欲は不必要な誘惑や緊張感をもたらす、とパウロは述べています。

したがって、子供の数や出産の間隔、またこれに類する問題については、夫婦が正義に基づいて熱心に話し合い、主からの靈感を求めた上で決定を下すべきです。予言者は賢明な勧告を与えてきたと思います。予言者は、夫婦に対して、母胎の健康を十分考慮した上で慎重に計画を立てるようにと勧めています。大管長会のこの勧告を無視したり、誤解したりすると、思わぬ悲劇を招くことになりかねません。

7人の子供を持つある夫婦の話をお紹介しましょう。奥さんは高血圧で、医者からこれ以上の妊娠は非常に危険なので避けるように忠告されていました。しかし、この夫婦は地元の神権指導者から受けた教えを、いかなる状況であろうとも避妊は行なうべきでないという意味に解していました。その結果、彼女は8番目の子供を出産中に脳いっ血で亡くなりました。

このほかいろいろな人とお会いして事情を聴くたびに、私は「教会指導総合手引き」に記されている大管長会の言葉、すなわち母親の健康と家族の福利を考慮しなさいという勧

告に鼓舞されます。私は現役の婦人科医として、また末日聖徒の家庭を見守る者として34年間働いてきましたが、その間に、肉体的な健康だけでなく情緒的な健康にも目を向けることが大切であるという教訓を得ました。夫婦の中には、感情的な起伏や抑圧がほとんどなく、大勢の子供を持つことに伴う圧力に容易に耐えられる人々がいます。また、家族や友人から多くの助けを受けている夫婦もいます。つまり、同じ望みを持ち、同じ意欲を持っていても、夫婦によって個人差があります。こうした責任に加えて、さらに両親には子供を養育する義務が課せられています。もちろん、ぜいたくな生活をしたいという理由から子供の人数を制限するのは正しくありません。ぜいたくには、正当な理由がありません。靈感された人は、ぜいたくか、そうでないかは、即座に見分けることができると思います。

要するに、夫婦は最も大切な事柄をささいなことのためにおろそかにしてはならないのです。何が最も大切かを判断する場合は、行為そのものだけでなく、動機に対しても責任を問われると、私は信じています。したがって、子供の数や出産の間隔、その他これに類する問題について考える時は、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」(創世1:28)という主の戒めに従おうとする意欲を持つべきです。天父が期待しておられることは、その過程において私たちが自由意志を行使して、自分自身と家族のために賢明な方針を打ち立てることです。それに必要な知恵は、研究と祈りにより、また心の中にささやきかける静かな細かい声に聞き従うことにより得られるのです。

人生の使命

七十人第一定員会会員
ジョン・H・グローバーク



先日、飛行機の中である男性と一緒にする機会があった。私たちは互いに言葉を交わすようになり、彼は私にどんな仕事をしているかと尋ねてきた。そこで私は、モルモン教会の宣教師ですと答えた。すると彼は急に態度を変えて、宣教師のように人の心を変えようとする類の人々はあまり好きではないと言った。

「でも、あなたも宣教師ですよ。」と私は言った。

すると彼は強い口調でそれを否定し、なぜ自分が宣教師なのか、その理由を説明してほしいと言った。私は彼に、彼の言葉や行ないは何らかの点で他の人々に感化を与えており、したがって彼も自分自身の生き方を伝えるひとりの宣教師であると述べた。

「それは、どういうことですか。」

「つまり、あなたは今上着のポケットにたばこを入れていますが、たばこを吸うことが良いことだと思っておられるわけです。そして、あなたのお子さんは、あなたがたばこを吸う姿を見て、何らかの影響を受けるでしょう。恐らく、たばこを吸える年齢になったら吸うと思いますよ。結局、あなたは喫煙家を増やす伝道をしているのです。」

「とんでもない！」彼は大声をあげた。「私はたばこが少しもいいとは思っていませんし、それに自分の子供にたばこを吸わせようとは思いません。死ぬことだってあり得る悪い習慣ですよ。」

言うまでもなく、私たちはその後の旅の時間を非常に興味ある会話で過ごしたのだった。

ここで私が申し上げたいことは、私たちは皆、宣教師であるということである。私たちの言葉や行ないはすべて永遠の救いにかかわり合いのあるものであり、それは自分自身だけでなく、まわりの人々にも大きな影響を及ぼすものである。

ある教会員が私にこう言った。「伝道以外の教会の責任なら何でもできますが、伝道はどれも苦手です。」(このように言ったり、感じたりしている人がどれほどいることだろう。)そのような人々に対して、私はいつも同じ言葉を繰り返す。「でも、あなたは宣教師ですよ。」

教会の中では(世の中でも同じことが言えるが)、「伝道」という言葉を往々にしてひとつの言葉に限定して使っているようである。それは、多くの人が日常生活と伝道とを切り離して考えているからである。私たちはもっと理解の眼を開く必要がある。

私たちはこの世に来る前に、すでに生活を営んでいた。霊界でそれぞれ何らかの役割を果たし、この地上にくる資格を与えられた。それで私たちは皆、神の御子であり私たちの救い主であるイエス・キリストによって提案された天父の計画を支持し、この時代にこの地上に来て主の計画を果たすことに賛成したのである。

私たちはこの人生を、「専任伝道期間」として特別に定められた、大きな使命を持つ期間と考える必要がある。私たちはしばしば出産や死に際して、この地上での生活のはっきりとした目的を知ることがある。幼児の祝福の中で、「あなたのこの世における使命は人々に慰めを与えることです」とか、葬儀の席で「この世における彼の使命は……」という言葉を目にする。

使命とは、善きにつけ悪きにつけ、何らかの目的を持って生活することである。

マッケイ大管長はかつて「すべての教会員は宣教師である」と言われた。この言葉が教会や私たちの生活において大きな意味があるのは、その言葉の中に基本的な永遠の真理が含まれているからである。私たちは確かに宣教師である。善を広めるか、悪を広めるかは別にして、私たちは皆宣教師である。

盲人によって開かれた理解の眼

アーサー・S・アンダーソン

私は、ひとりの盲人から学んだ指導の原則を決して忘れない。それは、ソルトレーク・シティのイーグルゲートの四つ角でのことである。その日、私がこの街角にさしかかると、盲導犬を連れたひとりの盲人（後でわかったことだが、名前をジム・ガンスキーという）が近づいてきた。間もなく信号が変わった。しかし、盲導犬はもじもじして一向に歩き出そうとしない。曲がり角のところに停車しているバスに視界をさえぎられて、安全を確認できなかったからである。私は見兼ねて盲人の腕をとり、横断歩道を渡り始めた。歩きながら、私は犬がなぜ動こうとしなかったかを説明した。そして説明を終える頃には、すでに横断歩道を半分ほど進んでいた。その間、盲導犬は何度も私の方に目を向け、げんそうに主人の顔を見上げていた。それから引き具をねじるようにして、自分が心配していることを主人に伝えようとしているのである。盲人は私に丁寧に礼を述べてから、きっぱりと言った。「恐れ入りますが、手を放していただけますか。この犬は自分の仕事を奪う人が嫌いなもので。」

何と大切な教訓だろう。一度責任を任せたら、それを奪い取ってはならないのである。

委任に関するもうひとつの忘れ難い教訓を与えてくれたのは、1960年代末に合衆国東海岸一帯の伝道部を管理していたマーク・E・

ピーターセン長老である。彼は指示と助言を与えるために、当時私たちが管理していたノースカロライナ・バージニア伝道部を訪問して下さった。

ピーターセン長老はヨーロッパの伝道部長当時、素晴らしい成功を収めた人だったので、私は伝道部を管理する上で自分が抱えているすべての問題に解決策を与えてもらえるものと思っていた。そこで、少し時間を割いてもいい、私は、伝道部の問題を打ち明け、助言を求めた。ところが彼は次のようにしか答えて下さらなかった。「ある伝道部ではその問題をこのように解決しました。また少し離れた別の伝道部ではこのようにしています。」ピーターセン長老は幾つかの解決策を挙げるだけで、どれを選ぶかは私に任せられた。それから6日後、ピーターセン長老は飛行機で帰って行かれた。その間、私のすべての質問に耳を傾け、助言を与えて下さった。しかしその解決方法を選ぶのはあくまで私に任せ、しかも私が決定したことはすべて受け入れて下さったのである。これは、主のみ業に携わる傑出した指導者から得た貴重な教訓である。

その後、私は予言者ジョセフ・スミスの著書を読んで、委任と管理の職に関する予言者の考えに改めて興味を持った。ある時、予言者ジョセフ・スミスは、英国で伝道中の十二使徒定員会の会員たちに手紙を書き送った。

彼らは助言を求めていたからである。予言者は適切だと思われる幾つかの助言を与えてから、こう書き記した。「あなた方が助言を求めている事柄には、重要な問題が数多く含まれています。しかし、あなた方は、完全な決定を下すことができると思います。なぜなら、私よりも現在置かれている状況に通じているからです。私はあなた方の結束した知恵に絶大の信頼を寄せています。そういうわけで、私があえて詳細に触れなかったこともおわかりいただけると思います。もし何か間違ったことに気づいたら、私は自分の考えを明らかにして悪い点を指摘したと思います。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 176)

数年前、神権ホームティーチング委員会で働いていた時、私は、教会幹部に同行してステーキ部大会でホームティーチングに関する指導の原則を教える責任を受けた。私はアイダホ州ラフト・リバースステーキ部で開かれた土曜日の夜の神権指導者会で、七十人第一定員会会員のA・セオドア・タトル長老から、用意してきた発表をするように言われた。それから約15分間、私はホームティーチングに関する話をし、ステーキ部の兄弟たちの実績を向上させる方法について私なりにわかりやすく説明した。後方の席で数人があくびをしたのを除けば、聴衆は静かに耳を傾けていた。途中で興味深い話を織り交ぜ、最大限の熱意を込めて話をした。話が終わった時、私は大試合を前に選手を叱咤激励するフットボールチームのコーチのような心境だった。

次いでタトル長老が話をするために立ち上がったが、その顔は物思いに沈んでいるようであった。彼は次のように言って話を始めた。

「私はアンダーソン兄弟の話を一生懸命に聴こうとしましたが、どうしてもほかのことが心に浮かんで仕方ありませんでした。それは、私が担当しているホームティーチングの家族のことです。彼らと心を通じ合い、良い影響を与えようとするのですが、幾つかの問題があつてなかなかそれができません。そのため彼らのことがどうしても頭から離れないのです。これから状況を簡単にお話しますので、皆さんの助言をいただきたいと思います。」

タトル長老は信頼を裏切るような個人的な事柄には何ひとつ触れずに、幾つかの問題点を明らかにした。間もなく、何人かの手が挙がり、助言や解決策が述べられた。会場にいるすべての神権者が熱心に参加して、少しでも助けを与えようとした。こうして、彼らは自らホームティーチングの問題を解決する方法を学んだのである。

その間、私はどうしていたかということ、人に動機づけを与えて教える偉大な教師の業を、ただ畏敬の念をもって見守っているだけだった。タトル長老は熱心に人々を導き、委任し、人々の熱意を駆り立てた。彼の指導を受けた人々は、自分の態度が変わっていることに気づけなかった。ただ他の人の問題を解決するために積極的に参加することしか考えていなかった。

ある意味で、指導者に課せられている最も大切な責任は、人々を導き、人々に動機づけを与えることであるといえる。キリストの教えに倣って生活する人々の模範に従うならば、私たちは主から託された責任を積極的に果たして第二の位を保ち、主のみもとへ帰るにふさわしい者となることができるのである。

バディー・コナッツェルと奥さんのマルチナ・ラネイ・コナッツェルは、ふたり共18歳でバプテスマを受けてからもうかれこれ16年も教会に来ていませんでした。教会員はだれひとり彼らと話すことなく、もちろん訪れる宣教師もいませんでした。しかし、そんな彼らの家に、ユタ州ドレーパー出身のバーン・リチンズとウィルマ・リチンズ夫妻が

やって来たのです。リチンズ長老とリチンズ姉妹がテネシー州ジェームズタウンのコナッツェル家を訪れた時、ふたりの正体を知ったバディーは、早速例によって言い訳を始めました。リチンズ長老は居間の壁に掛かった鹿の剥製はくせいを指して尋ねました。「コナッツェル兄弟、あれはおじろ鹿ではありませんか。」

「そうですよ。」

夫婦の伝道

マービン・K・ガードナー



「ちょっと見せて下さいませんか。これはどなたが剝製にしたものですか。」

「私がやりました。」

バディーはふたりを中に招き入れました。それから2時間ほど、教会のことは一言も話題にのぼりませんでした。しかし帰る時には、コナッツエル兄弟はリチンズ長老たちが祈ることに同意してくれました。

リチンズ姉妹が尋ねました。「3人のお嬢さん方に、御両親の教会のことを教えてあげてもよろしいでしょうか。」

「あの子たちはその道を下ったところの教会に行ってます。教会はひとつで沢山です。」バディーはそう答えました。

しかしふたりは引き下がりませんでした。そして何とかバディーの承諾を得ることができました。その日は木曜日でした。翌日の金曜日に最初のレッスンをし、日曜日には家族全員で教会に出席してくれました。そして、1週間後の日曜日にも、また家族そろって教会に出席してくれました。レッスンもすでに4回終わっていました。一番上の少女が問いかけてきました。「リチンズ兄弟、私たちにいつバプテスマをしてくれるの?」

「お父さんとお母さんの許可が得られたらね。」

それを聞いていたバディーはこう言いました。「それじゃお願いしますよ。最初のレッスンを受けた日から、私たちはタバコも酒もやめました。教会が真実であることはよく知っています。ずっと前から真実の教会を知っていたのに、それに気づかずには何かほかのことばかり求めていたようです。」

その週末にリチンズ長老は娘さんたちにバプテスマを施し、翌日の日曜日にはバディー・コナッツエル兄弟を祭司に聖任しました。それから数カ月後に、コナッツエル兄弟はリチンズ長老によって長老に聖任され、さらにステーキ部長の指示で、第2副支部長に任命されました。また彼の家族は、リチンズ兄弟、姉妹を証人として、ワシントン神殿で結び固めの儀式を受けることができました。

リチンズ夫妻は宣教師でした。他の夫婦の宣教師と同じように、この奉仕の時間は犠牲ではなく、満たされた日々でした。「人生で最も満たされた時」でした。

夫婦の宣教師とは、どういう人々のことでしょうか。「1. 夫婦が共に神殿推薦状を受けるにふさわしい状態にある。2. 扶養家族と同居していない。3. 伝道地において自給するに足る財力がある。4. 夫婦とも健康で、伝道活動における肉体的、情緒的必要を満たすことができる。」(「伝道の手引き」p.28)任期は普通1年半ですが、多少の融通がきくようになっていきます。伝道管理部は彼らが「教会で最も優秀な宣教師」と言われる理由を3つあげています。地元の指導者の訓練ができる、教会員と親しい関係を持って働くことができる、伝道活動を効果的に進めることができる、というのがその理由です。

地元の指導者を訓練する

夫婦の宣教師は、地元の指導者が彼らの経験や熟練や指導によって大きな利益を受けられる地域へ派遣されます。そうかといって、主要な指導的立場に就くことは普通ありませんが、彼らは地元の権権組織や補助組織の指導者と親しい関係を持って働き、経験によって教え、模範を通して彼らを強めます。

七十人第一定員会会長であり、伝道管理部の元管理ディレクターであるロイデン・G・デリック長老は、自分が伝道部長の時に、英国のリバプールやプレストンにステーキ部を設立できたのは、地元の指導者と共に働いた夫婦の宣教師に負うところが大きかったと述べています。

同じく七十人第一定員会会長であり、現在伝道管理部の管理ディレクターであるカーロス・E・エイシー長老は、伝道部長当時、テキサス州西部にある支部でどうしても伝道が進まないで夫婦の宣教師を派遣してほしいとその地域のステーキ部長から要請を受けました。そこで、アイダホ州リグビーから「教

会員の中でも最も経験豊富な」メルビン・クック長老とアニー・クック姉妹がそこに派遣されました。そして、クック長老は副支部長として地元の神権指導者を指導し、奥さんも補助組織で活躍されました。

エイシー長老はこう述べています。「彼らは賢明でした。自分たちがやり過ぎればかえって支部の会員たちにとってよくないということをよく承知していました。また、自分たちはよい模範にならなければならないことを知っていました。そして教会員とひとつになって立派な活気ある支部を作りあげたのです。」

教会員への模範

夫婦の宣教師は、ただいるだけで支部やワ

ード部の力となります。七十人第一定員会会員であるレックス・D・ピネガー長老はこう言っています。「夫婦の宣教師は、教会が人々のために何を行なっているかの生きた見本です。伝道地の人々は彼らを見、彼らの行ないに示される偉大な信仰を目の当たりにします。そして教会で奉仕の一生を送ることの何たるかを知るのです。」

アリゾナ州メサに住むライル・ヒルトン長老とエレクタ・ヒルトン姉妹は伝道を終えた後、あるひとりの若い女性から手紙を受け取りました。「これまで私に与えて下さった励ましに心から感謝しています。ありがとうございます。お年を召していながら、夫婦で共にイエス・キリストに仕えるお姿を拝見して、



私も神殿で結婚し、おふたりのような幸せな奉仕の生活ができるようにしたいと思うようになりました。」

家庭の夕べを行なう、病気の教会員を見舞う、経験の浅い神権者が家族を祝福するのを助ける、教会員に菜園作りを教えるなど、夫婦の宣教師は様々な活動を通して教会員を強め、モルモンとしての生活様式を守るよう励ますことができます。

ユタ州バウンテフルのメルビン・H・ロビンズ長老、デロイス・L・ロビンズ姉妹は、アリゾナで伝道中に、家族の一部が教会員で

ある14の家族を訪れて、彼らを教会へ導きました。英国ブリストル伝道部の前伝道部長、アーノルド・ナップ兄弟は、その伝道部では夫婦の宣教師によって年間600名以上の教会員が再び教会に活発になったと述べています。また、テリック長老によれば、彼が伝道部長当時、アイルランド共和国では夫婦の宣教師によって聖餐会の出席人数がほぼ3倍に飛躍的な増加を見たというのです。

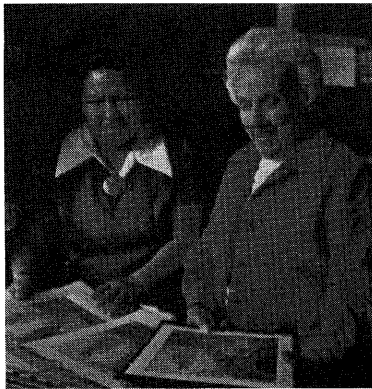
一体どうしてでしょうか。「人を愛すること、話に耳を傾けること、一緒に働くこと、……それだけです」と、ユタ州バウンテフルの

ラ・ノア・キャノン姉妹は言います。「夫のケイルは鶏小屋や兎小屋を作るのを手伝いました。一緒にトマトのびん詰めを手伝ったこともあります。皆さんと一緒に笑って、一緒に祈って、仲良しになりました。」



地域社会の一員となる

豊かな生活経験は、社会活動の面でも大きな利益をもたらします。夫婦の宣教師は経験が豊かなために人々と上手に話ができて、信頼も得やすいのです。



ピネガー長老は、「若い宣教師はとかくよそ者と見られがちですが、夫婦の宣教師はその社会の一員とみなされます」と語っています。

夫婦の宣教師は「腰を据えた」住人として、大勢の人と出会い、大勢の友を作り、新しい友人に心から思いやりを示すことができます。デリック長老はこう述べています。「人々に関心を寄せることが大切です。夫婦の宣教師は上辺だけではなく真心からの関心を寄せることができるために、人々に受け入れられるのです。」彼らは隣人として、他の方法ではどうしても開くことのできなかった扉を開くことがよくあります。

例えば、リチンズ長老と姉妹がテネシー州ジェームズタウンの町に着いた時、裏手に85歳のミラー老人が住んでいました。ある日、そのミラーさんがリチンズ夫妻の住むアパートへやってきて、屋根の雨漏りを直したいので、アパートの家主のはしごを借りたいと言ってきました。ところがその後、数週間経ってもそのはしごを借りにきません。そこでリチンズ長老は作業着に着替え、はしごを使って

その屋根に登りかけました。するとミラーさんが家から出て来て言いました。

「何をしてるのかね、宣教師さん。」

「お宅の屋根を直そうかと思ひましてね。」

リチンズ長老が仕事を終わると、ミラーさんは財布をあけて20ドル札を2枚取り出しました。「これ、手間賃ですわ。」

「手間賃なんてとんでもない。ただ『ありがとう』と言っただけならば、それで十分ですよ。私たちモルモンの宣教師は主の仕事をするのにお金はいただかないのです。」

しかしミラーさんは頑としてお金を引っ込めないで、リチンズ長老は言いました。「ただ友人としてお手伝いをしただけのことです。私たちの気持ちを示しただけのことです。」

「だが、わしはあなたがたの教会の会員ではない。」

「でも、同じ神さまの子供です。」

それから数週間後、教会員ではない雑貨屋の主人が、リチンズ長老にその後の経緯を語ってくれました。その雑貨屋でミラーさんは自分が属している教会の牧師と会い、近

頃教会に来ていないね、と少し非難めいた口調で言われました。この老人、初めはおとなしく聞いていたのですが、話が隣に住むモルモンに対する批判に及んだ途端に怒り出してしまいました。

雑貨屋の主人の話によると、彼はこう言ったということです。「今、あのモルモンの宣教師のことを何か言ったようですが、まあ、わしの言うことも聞きなさい。わしはあなたの教会に、だれか屋根の修理をしてくれないかと頼んだが何カ月も何の音さたなしだった。ところが、あの人はさっさと屋根を直してくれたよ。モルモンの宣教師がね。しかも自分でだよ。」

「そうですか。ところで、幾ら請求されました？」牧師は聞き返しました。

「ああ、主のお仕事をするのにお金などいりませんと言って、受け取りませんでしたよ。」

この出来事やその他いろいろな事柄が町のそこかしこでささやかれるようになり、人々はリチンズ夫妻を喜んで家へ迎えたいと思うようになりました。これまでジェームズタウンでは、モルモンに対する反対があまりにも激しかったために、4カ月といわれた宣教師はいませんでした。しかし、リチンズ夫妻は違っていました。この3カ月間、彼らは町の聖職者たちと会い、さらにラジオ放送局のマネージャーや町の有力者たちと積極的に友好関係を築いて、反モルモンのような宣伝を止めさせてしまったのです。

リチンズ夫妻の真心の実践は教会員にもよい影響を及ぼしました。ジェームズタウンに着任した最初の日曜日に、彼らに握手を求めてきたのは25人中のたった3人しかいませんでした。それからちょうど1年後には、109人の活発な教会員がみんな握手の仕方を会得していたのです。

リチンズ姉妹はこう語っています。「人々に何よりも彼らの幸福を願っていることをわかってもらえば、福音を教えるのはたやすいことですよ。」

奉仕の恵み

人々が福音の真理を受け入れてより良い生活に変わるのを目にするには、宣教師にとってこの上ない報いです。さらに夫婦の宣教師には、奉仕を通して得られる個人的な祝福もあります。

多くの人々がこの伝道の機会を子供たちへの模範として受け止めています。ソルトレーク・シティのバーノン・スナー長老は、「私たちがまず従わなかったら、10人の孫たちに、主の召しに従順になりなさいと言えないような気がしましてね」と言っています。

現在七十人第一定員会会員であるM・ラッセル・バラード長老が伝道部長であった時、ラバーン・エイシー姉妹は最初の面接で、宣教師として何をしてよいかわからず、恐ろしくて心配だと打ち明けました。そこでバラード長老は実際に彼女と一緒に「黄金の質問」をする練習をして、親切に手ほどきしたのです。

その後、エイシー姉妹はオンタリオ州カートランドレークに着任したその日、夫のエイシー長老がスーパーマーケットで支払いをしている間、勇気を出してレジ係の女性に「黄金の質問」をすることができました。そしてその女性から良い返事をもらったのです。

エイシー夫妻がベッティ・W・ギルドというその女性とその夫のロバートに最初のレッスンを行なった後、次からロバートの弟のドンとその妻シーラが加わりました。そして間もなく、4人はそろってバプテスマを受けました。その影響力はさらに友人、家族へと広がり、12名以上の人々がバプテスマを受けました。すべては、エイシー姉妹が自分には無理だと考えていた勇気を奮い起こしたことから始まったのです。

もうひとつの祝福は、多少調整は必要かもしれませんが、1日24時間を一緒に過ごせるということです。多くの夫婦が、共に一生懸命働き、永遠の伴侶が主のみ業に携わる姿を自分の目で眺め、長時間一緒に霊的な環境に

いられるということは喜びであると述べています。

しかし、夫婦の宣教師や伝道部長たちは、伝道は第二のハネムーンではないし、退職後の慰安旅行でもないと言をそろえて強調しています。ピネガー長老は、「退職後、伝道に出る夫婦は、チャレンジの多い、感動的な仕事に携わります」と述べています。

伝道で得られた霊的な進歩に感謝の念を抱いているアイダホ州ポカテロのディーン・M・ロイド長老、マーチー・ロイド姉妹は、そんなことで恐れてはならないと言っています。「退職後、私たちは長年計画していた通りに旅行をしました。確かに旅行は楽しかったのですが、霊的には少しも高まりませんでした。しかし伝道に出ようと決心してからは新しい力と感情が湧いてきて、大きな目標が生まれ、また新しい友人や新しい場所を知るようになりました。そのために夫婦の関係が以前よりも一層密に感じられるようになりました。私たちは共通の目標を持ち、本当の夫婦愛を築き上げることができました。そして何よりも霊的な引退ではなく、新しい霊的な成長に目覚めることができたのです。」

若い時代に伝道の機会がなかった人々にとっては、この伝道がその一生の夢を実現させるものであるかもしれません。しかしデリック長老はこう述べています。「私は、全教会員が2回伝道に出よう計画していただきたいと思います。最初は19歳の時に、そして2回目は引退する年齢に達した時です。退職後の伝道を計画し、そのために準備をすることが壮年時代の生活にどんなによい影響を及ぼすか、考えてみて下さい。体調を整え、精神を鍛え、霊性を高めるのにどんなに有益なことでしょう。」

しかし、この2回の伝道で十分だと言えるのでしょうか。元テネシー州ナッシュビル伝道部長でソルトレーク・シティー在住のエマーソン・T・キャンノン兄弟は、もう一度夫婦で伝道するのを楽しみにしています。しかも、

今度は夫婦の宣教師として伝道に出たいそうです。その理由を彼はこう説明しています。

「御夫婦の宣教師を見ていて私たちもあの人のたちのように全時間を使って伝道したいと思うようになったのです。」

ユタ州オグデンのジョセフ・モンゴメリー長老とテルマ・モンゴメリー姉妹は、夫婦として2度目の伝道に出た最初の日に伝道部長と面接をして、次のように語っています。「バックナー伝道部長、私たちはこれから1年半の間、一生懸命に伝道して1979年の9月にユタへ帰ります。そうすれば桃や梨やトマトのびん詰めにちょうど間に合いますからね。そして1979年のクリスマスまでに、3回目の伝道に出ようと思っています。」

夫婦の宣教師に共通の問題

伝道に出たい夫婦はどうすればよいでしょうか。前七十人第一定員会会長のA・セオドア・タトル長老は次のように述べています。「その資格と能力があるかどうかを神権指導者に尋ねていただきたい。」(「聖徒の道」1978年2月号、p.85)

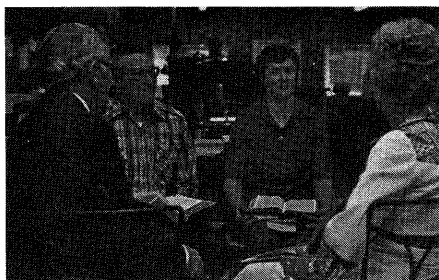
しかし、伝道の召しをこちらから求めるのは出過ぎたことでしょうか。七十人第一定員会会長のカーロス・E・エイシー長老はこう答えています。「いいえ、決してそんなことはありません。もちろん、夫婦が勝手に伝道に出るわけにはいきません。まず監督のところへ行って、伝道に関心があることを告げることです。」

また私たちは街頭伝道の厳しさに肉体的に耐えられるかどうかわかりません。エイシー長老は再びこう述べています。「でも街頭伝道がすべてではありません。ほかに、友達を作り、人々と交わる方法は幾らでもあります。」この記事の中にはいろいろな伝道方法について述べられていますが、街頭伝道のことに触れているところはどこにもありません。また夫婦は福祉活動宣教師として、教会員に健康や栄養の指導、農業、職業の援助を与え

ることもできます。

また訪問者センターのガイドとして働いている夫婦もいます。そのほか、広報関係の仕事や伝道本部勤務の宣教師として働いている人もいます。

私たちは皆、レッスンを覚える必要があるのでしょうか。ある夫婦の宣教師は覚える必要がありますが、覚えなくてよい夫婦もいます。エイシー長老はこう述べています。「夫婦の宣教師はレッスンの概要を習っていれば、一言一句正確に覚えなくても効果的に教えることができます。」宣教師訓練センターでは、福音の概念を教えることのほかに、会話や言葉の勉強、聖典の勉強などにも力を入れています。そして、自分たちが福音の真理に目覚めた生活体験を通して福音を教えられるようにしています。



夫婦の宣教師も新しい言語を学ぶ必要があるのでしょうか。もし過去に外国語を勉強した経験があり、外国語を話す能力があれば、監督にそう話して下さい。しかし、「普通、夫婦が希望している場合や、あるいは夫婦の承認がなければ、言語の修得を要する地域に派遣されることはありません」とエイシー長老は述べています。

もし私たちが住み慣れている気候とまったく違う地域に派遣されたとしたら、どうなる

でしょうか。普通、気候の適応性は人が考えるほどむずかしいものではありません。ワシントン州サニーサイドのJ・キャロル・バグリー長老、パール・A・バグリー姉妹は、最初は英国本土へ、2度目はフィリピンというように、寒い所と暑い所の両極端の地域で伝道しました。しかも、「どちらの国でも、病気で休んだ日は一日もありませんでした」と述べています。

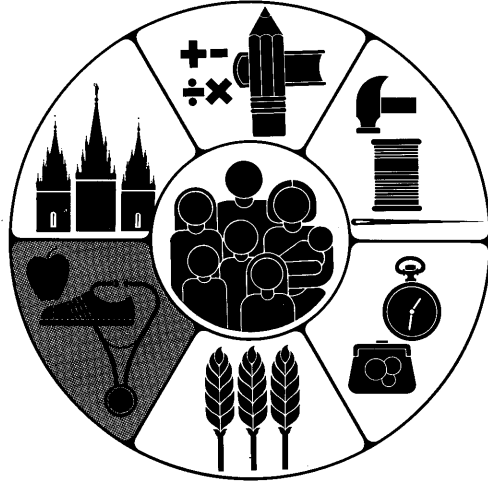
その他の健康面についてはどうでしょうか。健康は監督が十分に考慮すべき項目のひとつです。しかし、ほとんどの宣教師は十分伝道ができる健康な体を具えているようです。アイダホ州アリモのウィノナ・L・アームストロング姉妹はある朝、目を覚ますととてもひどい偏頭痛がしました。しかし、その日、夫と共に予定している5回のレッスンを取り止めたくありませんでした。そこで主に祈りました。主にはその痛みを取り除く力のあることを知っていたからです。「私が祈り終わって立ち上がる前に、すでに頭痛は治まっていた。」

ユタ州ドライバーのウィルマ・リチンズ姉妹は伝道に出る一週間前まで車椅子の生活でした。もちろん伝道地に行っても病や痛みは完全になくなったわけではありません。しかし、車椅子を必要とはしませんでした。「決して生易しいことではありませんでした。苦しくてつらいことの連続でした。でも私たちが精一杯努力して、力尽きた時には、主がさらに力を与えて下さいました。」

ピネガー長老も、夫婦の宣教師は奉仕をするに十分な健康を具えておく必要があると述べた後に、こう付け加えています。しかし、「彼らが通常の宣教師と同じような厳しいスケジュールに従うよう期待してはしません。伝道部長は、彼ら自身でどれだけできるか決めさせます。夫婦の宣教師は永遠の伴侶と共に、長い目で地域社会に働きかけることが大切なのです。」

医者にかかる前に

スザンヌ・ダンドイ



家 族のだれかが病気にかかったら、医者へ

行く前に、まずその病人をよく観察しなければなりません。一刻を争う場合でなければ、観察結果をメモして下さい。病状を十分に把握しないうちに病院へ駆けつけると、重要な徴候を見逃すことにもなりかねません。病気の症状には、痛い、ひきつる、息苦しい、だるいというように本人が訴えるものと、発熱、出血、発疹というように観察してわかる客観的なものがあります。

病状をきちんと報告できるように、次のチェックリストを利用してはいかがでしょうか。

痛み

- () 痛みの種類。(鈍痛、疼痛、激痛など)
- () 間隔(常時、あるいは断続的)
- () 姿勢を変えると痛くなるか。
- () 食べると痛くなるか。

熱

- () 体温計で計った体温

脈拍

- () 1分間の脈拍数
- () 1分間の呼吸数
- () 呼吸困難はないか。
- () 咳は出ないか。

出血

- () 箇所
- () 血の色 (濃い, 薄い)
- () 量 (継続的, 断続的, にじむ程度)

排出物

() 大便, 小便, 嘔吐物, たん, その他排泄物の色や様子の変化 (普段と違っているようであれば, ふた付きの容器に入れて病院に持って行く)

皮膚

- () 全体の様子 (赤み, 発汗, 蒼白, 黄疸など)
- () ある箇所だけ赤いとか青いということがないか。
- () 発疹 (箇所と様子)

全体的に

- () 病人らしくみえるか。
- () 気分はどうか。(脱力感, 倦怠感など)
- () 具合が悪くなってどれ位経つか。
- () 食欲はどうか。

徴候や症状の説明に加えて, 病人にどのような応急処置をしたか, どのような薬を飲ませたかということも医師に伝える必要があります。医者は, 病人の症状を完全に知ることによって初めて, 正確に診断を下し, 速やかに治療を施すことができるのです。

熱とは何でしょうか

熱はないが病気だという場合もあります。しかし一般に発熱は, 体の調子が悪いことを知らせる赤信号です。医者は長い間, 平熱との差異を, その人が病気かどうか, またどう

いう病気でどういう処置が必要か, 病人がどのくらい回復しているかなどを判断する目安としてきました。病気にかかると, 医者から最初に「熱は何度でしたか」と聞かれるのはそのためです。ですから, どの家庭にも体温計を常備して, その取り扱い方法をよく知っておくことが大切です。

次のような症状がある時は, まず体温を調べて下さい。

1. 気分が悪い時, 病気の徴候が表われた時。
2. 病気の際は毎日同じ時刻に1日1回ないし2回, 朝夕あるいは医師の指示に従って計る。(患者の状態や年齢に応じて, 4時間おきであったり, 週1回であったりもする)
3. 寒気がする, 眠れない, 痛むなど病人の状態に急な変化があった時。
4. 頭痛, 胸部や腹部の痛み, のどの痛み, 悪寒, 嘔吐, 下痢, 発疹などのある時。

検温のために患者を起こす必要はありません。正確に計るためには, 病人が温浴あるいは冷水浴をした後や, 熱いもの, 冷たいものの飲んだ後は, 最低15分間ほど待って検温を行ないます。運動の盛んな子供たちは, 比較的静かにして, 休んでいる時に行なうようにします。

検温の仕方, 体温計の読み方がわかったら, その体温が何を意味しているのか, 一通り知っておくことが大切です。成人の場合, 37.8度あれば熱があると考えられます。幼児の場合は, 38.2度まで平熱の範囲と見てよいでしょう。人間は1日24時間の間に体温が変わります。夕方やや高く, 朝方が一番低いのです。

熱そのものは病気でないことを承知してい

て下さい。熱は病気の症状なのです。しかし、熱がいつも病気の症状かというところ、そうではない場合もあります。熱が全然ないのに重い病気にかかっている場合もあるからです。また熱はないのに、熱の症状が出ることもあります。その場合もそのことを医者に伝える必要があります。

子供が39度や40度の熱を出したからといって、あわてることはありません。熱の高低が必ずしも病状を表わしているわけではないからです。ただし、生後3カ月に満たない乳児の発熱は問題です。大きな子供の熱と違いますから、必ず医師の診断を仰いで下さい。

時々医者は熱を度外視して、病気そのものの治療に専心することがあります。この種の熱は、体が病気と闘っている証拠なのです。また熱を病気の進み具合を知る手段としても使われることもあります。しかし、病人が高熱のために眠れない時や衰弱している時は、医者も熱を下げようとするはずです。

家庭常備薬

常備薬は、家族がけがをした時や病気になる時にすぐに使用できるようにしておくことが大切です。夜中や危急の時に病院に行けずに、どうしても一時的に症状を和らげる必要が生じることがあるからです。

家庭の常備薬として、次の薬品を備えておくとういでしょう。

- 解熱鎮痛剤（小児用も）*
- 充血除去剤（錠剤も含む）*
- 鎮咳剤、去痰剤
- トローチ錠
- 抗生物質軟膏
- ワセリン

- カラミン洗淨液
- 火傷治療軟膏、鎮痛噴霧剤
- 抗ヒスタミン剤*

以上の薬は、処方薬と同じように変色したり、外見や匂いに異常が認められたりしたら廃棄して下さい。子供のいる家庭では、医薬品を鍵のかかる箱にしまって下さい。また毒薬には、その毒薬のための解毒薬を記したラベルも張っておくようにします。

薬以外で救急箱に常備しておくものとして次のようなものがあります。

- 体温計
- 薬用アルコール（70%）
- 消毒液（傷口の消毒用）
- 消毒綿と綿棒
- 救急絆創膏
- 包帯、眼帯
- 殺菌ガーゼ
- ハサミ
- ピンセット、毛抜き
- 氷まくら
- 応急手当のガイド

以上の医薬品はみんながよく知っている出しやすい所にまとめて保管して下さい。適当な薬や器材が手近にあれば、急病やけがの時にも落着いて処置できます。病気やけがのひどい時は、すぐに医者に診せる必要のあることは言うまでもありません。

* 子供には医師または薬剤師に相談して使用して下さい。

（スザンヌ・ダンドイ、医学博士、アリゾナ州保健衛生局局長代理）



ちい とも
小さなお友だちへ



りょうしん おし
両親の教え

十二使徒評議員会会長
 エズラ・タフト・ベンソン

天てんのお父とうさまは、世じゅうかいで中の、子こどもたちを あいしておられるので、りょうしんを あたえてくださいました。りょうしんは、わたしたちが、りっぱなやくにたつ人ひとになるように、教おしえ、助けてくれます。りょうしんのよいえいきょうりよく力は、はかりしれません。りょうしんの教おしえを守ると、りっぱな人ひとになれます。主しゅをしんじ、いのることを学まなび、けんこうで、正ただしい生活せいかつをするためのきそくを おぼえておこなうことがたいせつです。そのうちのいくつかを しょうかいしましょう。

よい人ひとびとと 友ともだちになる。
 人ひとのわる口くちを 言いわない。

じぶんのあやまちを すなおにみとめる。

りょうしんをうやまい、したがう。
 神かみさまのことは、けいけんな気きもちで話はなす。

らんぼうなことばを つかわない。

はらが立たっても ほかの人ひとをせめない。
 人ひとの話はなしは ちゅういして よくきく。
 ためになる遊あそびをする。
 じぶんをよく見みせようとしない。
 たとえふざけてでも、人ひとをきずつけることは言いわない。
 つつましい身みなりをする。
 じぶんのことを じまんしない。
 大おお声こゑで わらわらない。
 道みちで ものを食たべない。
 一いち度にたくさん ものを口くちに入いれない。
 人ひとを ゆびささない。
 おせっかいはしない。
 口くちにものを入いれたまま 話はなさない。
 正ただしいしせいで しょくじをする。

子こどものときの 言こと葉はづかいや たいどは、おとなになっても つづくものです。

わたくしは、みなさんが、人ひとびとのもはんとして、生活せいかつしてくださるよう
 に、おいのりしています。

おどろぎん



どいっしょ

グレータは、おなかをすかしてよってくるアヒルに、パンくずを投げやりました。でも、なんだかそわそわしています。お父さんのそうじゅうする船は、きょうにかぎってなかなか進まないような気がします。

「もう少しのしんぼうだ、グレータ。もうすぐふたりに会えるぞ。」お父さんがふり返って言いました。

グレータはうなずきました。「だって、アニーとハンスにはずっと会っていないんですもの。去年の9月、ハンスのおたんじょう日に会ったきりよ。それにきょうは、アニーのおたんじょう日でしょう。早くみんなに会いたくて。」

急に、お父さんはかなしそうな顔をしました。「おまえも、同じくらいの子供たちともっと遊べるといいんだがなあ。何とかしてやりたいのだけど、今はこの船にいるしかないし……。」

「いいのよ、お父さん。チーズや野菜を農家から市場へ運ぶのは、アムステルダムでは大切なお仕事ですもの。船の上でくらせる女の子って、そんなにいないわ。」

どんなにさみしくても、友だちがいなくてひとりで船にのっているのがどんなにたいくつでも、お父さんをこま



らせてはいけない、とグレータは思いました。気がつくと、おじさんと、いとこのアニーとハンスが、さんばしから手をふっています。グレータは、もうそのことを考えるのをやめました。

急いで船からおりると、グレータは、ここにこしているふたりのいとこをだきしめました。「また会えてうれしいわ。」

「最高のおたんじょう日のプレゼントよ」とアニーが言いました。「ほんとうにひさしぶりね。」

ハンスもほんとうにうれしそうです。「早く家に行こうよ。グレータに見せたいものがあるんだ」と、せきたてるように言いました。

お父さんとおじさんは、話にむちゅうになっていて、3人がかけ出したのも目に入らないようすです。少し行くと、丘の上に大きな黄色い家が見えてきました。

ヒルダおばさんが、げんかんの前で待っていました。おばさんは、エプロンで手をふくと、グレータを強くだきしめました。「あなたに会うのを楽しみにしていたのよ。よくきてくれたわね、グレータ。」

とつぜん、グレータの胸にあついても

のがこみ上げてきて、なにも言えなくなっていました。アニーとハンスはなんてしあわせなんでしょう。お父さんやお母さんのいるこんな大きくてすてきな家に住めて。ふたりは、このしあわせに気づいているかしら。

おばさんは、ちょうどケーキをやいているところで、3人に少しずつ切ってくれました。できたてのケーキには、さとうとバターがたっぷりかかっています。

「そうそう、わたしに見せたいものってなあに。」グレータが聞きました。

ハンスとアニーは、急いでグレータを庭に連れていきました。

「ほら、見てごらん。」

ハンスの指さす方を見ると、そこには、たくさんのチューリップにいろどられた、かわいい庭がつくってありました。

「わたしがお花をうえて、ハンスが小石をならべて道と池をつくったの。」

アニーがせつめいしてくれました。

「それからねハンスはね、小さな風車もつくったのよ。」

「なんてすてきなお庭なんでしょう」グレータは、かんげきして言いました。子供たちが家にもどると、お父さん

とおじさんとおばさんが、テーブルをかこんですわっていました。

おじさんがせきばらいをして言いました。「グレータ、今年の冬は、ここで、わたしたちといっしょにくらさないかね。アニーやハンスといっしょに村の学校へ行けるよ。おまえのお父さんは、おまえが大きくなったので、そろそろふつうの家に住んだほうが良いと考えているんだよ。」

グレータのお父さんは、うなずいてから言いました。

「お父さんは、そのことについてときどき考えていたんだよ、グレータ。でもまず、おじさんやおばさんの考えを聞いてみようと思っ

「すごいわ、グレータ。」アニーがさげました。

「毎日いっしょにいられるんだよ」ハンスがにこにこしながら言いました。グレータのむねはわくわくしてきました。ゆめがかなえられるのです。

気がつくと、グレータはお父さんの方を見ていました。そして、お父さんとわかれることはできない、と思

「お父さんは、今はにこにこしているけれど、心の中ではかなしんでいる

にちがいないわ。お父さん、ひとりぼっちになったらかわいそう。」

グレータは、お父さんのそばに行く

「おじさん、ほんとうにありがとう。でも、わたしのうちはここじゃないわ。」

お父さんの方をふり返り、グレータはやさしくこう言ったのでした。

「わたしの家族は、お父さんとわたしのふたりよ。わたし、それでじゅうぶんなの。」

お父さんは、ちょっとびっくりしたようでしたが、うれしそうな顔をしました。

「でもね、おまえはそうなるようにのぞんでいただろう。お父さんは、おまえにしあわせになってほしいんだよ。」

「わたしは、今でもしあわせよ」とグレータは答えました。

「おじさんが、わたしに、いっしょに住むように言ってくれたのは、ほんとうにうれしいわ。でも、わたしは、お父さんといっしょにいたい。わたしは、お父さんの子どもでいることがしあわせなの。」



土地どろぼう

6 つになるキャサリンは、歌いながらジョセフの後ろについて、ほりおこされたばかりのみぞに、黄色のとうもろこしのたねをまいています。ジョセフは、キャサリンの前を歩きながら、つぶやきました。「もし、アルビンがお金をもって帰らなかったら、このトウモロコシはみんな、土地業者の所へ行ってしまう。聞くところでは、虫やカラスにも、分けならしい。」

キャサリンは、土地業者について聞いたことはありましたが、よくは知りませんでした。

「にいさん、土地業者ってなあに。」
ジョセフは、牛をとめて、話しはじめました。

「土地を売る人のことだよ。日照りだったり、作物が売れなかったりで、土地のお金を返せない、農場をとりか

えしにくるんだ。」

ジョセフは、木を切つて畑を作ったときのことを思い出しました。お父さんは、朝早くから暗くなるまで働きました。また、土地のお金を返すために、イスやバスケット、ほうきを作つて売ったこともありました。お父さんは、ほかの農場でも働きました。それでも、お金はたまりませんでした。

「うちの農場は、とられるのかしら。」

キャサリンのことばに、ジョセフは、われにかえりました。

「お金ができればね。みんなで働いているけど、まだたりないんだよ。」

ジョセフは、ため息をつき、牛にむちをあてました。

「わたしにも、何かできるかしら。」

「キャサリンは、よく手伝ってるよ。木を切ったり、畑をたがやしたり、た

ねまきをしたりしているじゃないか。」

「ええ、でも、お金があるんでしょ。」
そう言うと、キャサリンは、土の上
にすわりこみました。

「土地業者に、農場をわたさなけれ
ばいけないの。」

「全部、お金を返せなかったらね。
そういう法律があるんだ。確かにそう
なんだけど、この2年間広い土地から
木を切り出して、畑を作り、家をたて
たのはぼくたちなんだ。かれらは、た
だ土地を売ってお金をもうけるだけだ。
ぼくらの苦勞は、水のアワになるんだ。」

キャサリンは、だれかが「土地業者
は土地どろぼうだ」と言ったことが、
やっとわかりました。

ジョセフが、家の中をのぞくと、お
母さんは、かまどにかけたシチューの
なべのふたととっているところでした。
ごはんのしたくができたようです。

夕食のあと、いつものように お父
さんはメガネをさがしはじめました。
メガネを入れた右下のポケットに手が
ゆくと、それは、聖書を読んで お祈
りをするという合図です。

その夜、家族は特別に長い祈りをさ
さげました。お父さんは、天父に感謝
をささげ、そして、なんとか必要なお

金^{かね}が与えられるように、お願^{ねが}いしまし
た。お祈りが終^{いの}わり、さん美歌^{びか}を歌^{うた}っ
ていると、戸^とをたたき音がしました。
お父^{とう}さんが出ると、となりの人^{ひと}が立^たっ
ていました。

「やあ。2、3日、むすこさんに、
働^{はたら}いてもらえないかと思^{おも}って来たんだ
よ。井戸^{いど}をほりたいんだ。」

アルビンはほらき^{はたら}に行^いっていましたし、
ハイラムもお父さんとといっしょに木を
切^きらなければなりません。ジョセフは、
「ぼくが行きます」と、答^{こた}えました。
お父^{おと}さんは、ほほえんで、「ジョセフな
らできる。よく働^{はたら}きますよ」と、言^い
ました。

「おまえさんのむすこはみな 働^{はたら}き
者^{もの}だから やって来たんだよ。」

ジョセフは、心^{こころ}の中^{なか}で「主^{しゅ}が、必要^{ひつよう}
なお金^{かね}をえる方法^{ほうほう}を与^{あた}えて下^{くだ}された」と、
感謝^{かんしゃ}しました。

その後^{のち}、アルビンも、お金^{かね}をもって
かえ帰^{かえ}ってきました。家族^{かぞく}で、たまったお
金^{かね}を数^{かぞ}えました。お金^{かね}は 十分^{じゅうぶん}すぎる
ほどありました。農場^{のうじょう}を自分^{じぶん}たちのも
のにできるとわかったとき、家族^{かぞく}は、
目^めになみだをうかべ だきあってよろ
こびました。

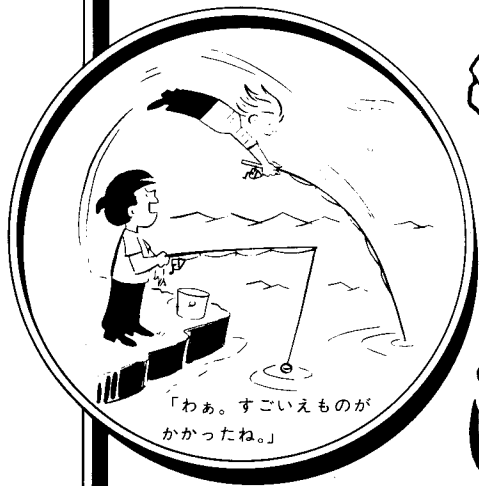
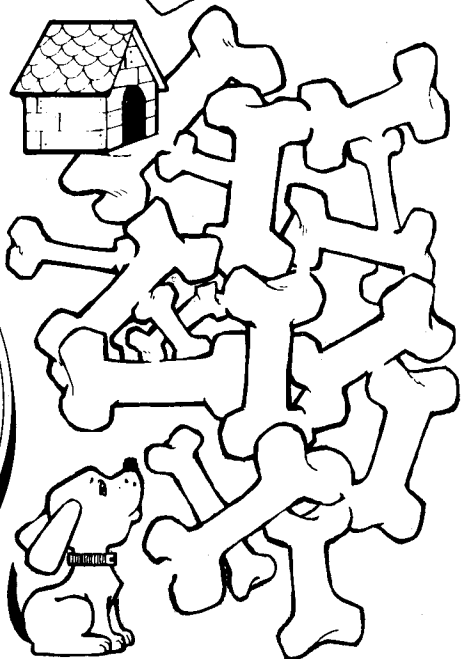
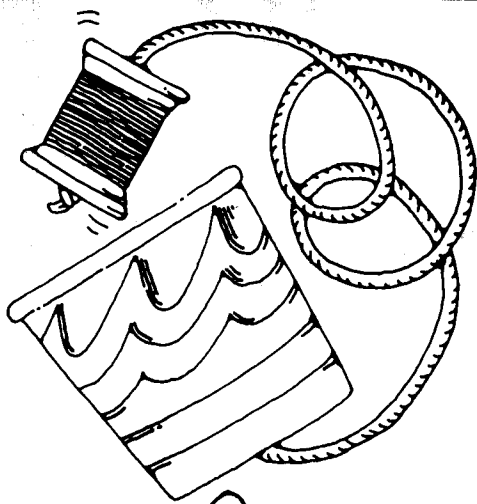


おもちゃばこ

このあそびは、ひとりでも、お友だちといっしょでも、楽しくあそべます。

よいするもの：大きな紙コップ、小さな糸まき、60センチのひも

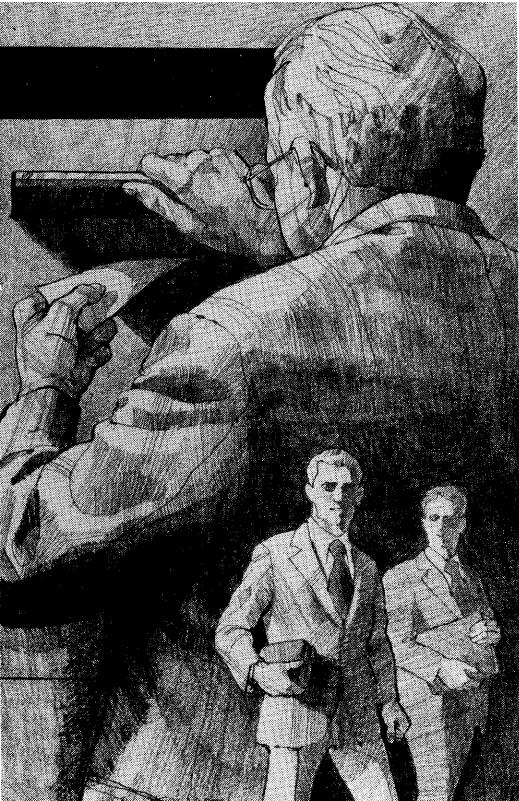
紙コップのそこにあなをあける。あなに糸を通し、糸のはしをコップの中でむすぶ。もう一方のはしを、糸まきのあなにを通してむすぶ。かた手でコップをもち、糸まきを下へたらしめます。それから、うでをふって糸まきを高く上げ、コップの中へ落します。時間をきめて、何回入るかやってみましよう。



「わあ。すごいものが
かかったね。」

ほねのめいろ

小犬が、ほねのめいろをとおって、いんこ小屋へもどれるように、たす助けてあげてください。



すべての戒めに 従いなさい

H・ケント・ラブリー

まさか言語訓練伝道部にいる間に、病院にかつぎ込まれて、レントゲン撮影を受けることになろうなどとは思ってもよらぬことであつた。しかし、私のくるぶしは大きくはれあがっていた。運動の時間の新しい犠牲者である。

その15分前、私はサッカーに熱中していた。残り時間は1分しかなかったが、私のグループがリードしていた。ところが突然、味方の守備が乱れ始め、ボールがゴール目掛けて飛んできた。私はボールの方へ走つた。そしてキックしようとした瞬間、それを阻止しようとした親友のデュラン長老とぶつかつて転んだ。ポキッ！木の枝をタオルで包んで折つたような音がして、みんなの顔色が変わった。私は右足を抱え、身をよじりながら、医者を呼んで下さいと叫んだ。

起き上がろうにも、足が痛くてできず、じっとして歯を食いしばるしかなかった。やがて救急車がやつてきて、病院に運ばれ、レントゲン撮影を受けることになった。ただの捻挫か脱臼ですんでくれるようにと祈つたが、奇跡の望みは打ち砕かれた。半開きのドアの向こうから、看護婦の声が聞こえてきた。「あんなひどい骨折、見たことがありませんわ。」

45分ほど、私は待たされた。やがて専門医がやつて来たが、先程の看護婦と同じことを言った。私は足首に金具を打ち込む手術を終え、夜の11時頃までベッドの中で意識もうろうとして横になっていた。その時、私の頭の中にあつたのは、2週間後に私のグループの21人の長老たちはグアテマラ・エルサルバドル伝道部へ発つが、自分を取り残されてしまうのではないかという思いだつた。

私は4日目に退院し、松葉杖をつきながら、

不自由な足を引きずって言語訓練伝道部へ戻ってきた。

レッスンはすべて終えていながら、その後5週間もそこにいなければならないということがどういうことか、説明する言葉もない。しかしレッスンなら、夢の中でも、シャワーを浴びながらでも、いつでもどの箇所でも言うことができた。

宣教師たちがグアテマラに出発するちょうど4日前に、私はギブスを取ることができた。しかし、さらに2週間の治療が必要だという。しかし、私は宣教師特有の熱心さで医者をお説き落とし、初めの数週間過度の歩行をしなければ出発してもよいという許可をもらった。

私の体内の燃える思いが回復を早めたのであろう。空港に着く頃にはかなり良くなっていた。足首が完全によくになっていることを証明するために、私は跳んだりはねたりしてみた。そして、右足に残っている20センチもある傷跡をみんなに見せて回った。とにかく、私のふざけた様子に、母は息をのんではらはらしていた。そして友人は口々にこう言った。「彼は本当に大げがをしたのかい」と。

涙を流す者やわいわい騒ぐ人々で空港はごったがえしていた。私は皆が与えてくれるいろいろな忠告や助言を上の方で聞いていた。そして、心はと言えば、ゲートの方にけん引されて行くジェット機と、グアテマラとエルサルバドルのすべての人を改宗することに飛んでいた。やがて搭乗時刻が迫ってきたことを告げるアナウンスがあり、せき立てられるようにして、両親や妹たちと最後のあいさつを交わした。そして、最後に泣きたいのを必死にこらえて笑顔を作っていたガールフレンドと固い握手を交わした。

搭乗口へ続くドアの所へ来た時、父がこう言った。「ケント、すべての戒めを守りなさい。そうすれば幸福な生涯を送ることができる。」「わかってます、父さん。」私はせわしげに相づちを打って、飛行機の方へ向かった。そして心の中でこうつぶやいた。「父さん、また言葉を間違えたね。つまり、こう言いたかったんでしょう。『すべての戒めを守りなさい。そうすれば幸福な宣教師生活を送ることができる』って。」私はそう言ってこの言葉に「親のお節介」というレッテルを貼り、そのまま記憶の片すみにしまい込んでしまった。

ところが、それから7か月後に、父が亡くなった。父が飛行機事故で死んだということを知ったのは伝道部長から聞かされ、私の心は動揺した。その時、自分が、左の肩に悪魔を、そして右の肩に天使を乗せた漫画の登場人物のように思えて仕方がなかった。悪魔はこうさきやいた。「お前はこんな所で何をしているんだ。死後の世界の話なんて、みんなうそっぱちさ。お前が伝道に出て、今までどんなことがあったか考えてみるんだね。足の骨を折って病院に入れられ、人も習慣も違う、西も東もわからない土地へ来て、挙句の果てに父親は死んでしまう。これがお前の人生で最も幸福な2年間かい。家族から3,000キロも離され、今のお前は天涯孤独の身じゃないか。」

私はこれまでずっと忠実な教会員でいたし、そのようなことを考えたこともなかった。しかし、ふとそんな思いが私の心の中に去来したのである。

しかし、もう一方の肩の天使がこう言った。「しっかりしなさい、長老。あなたのお父さんは立派な人でした。家族の長として、福音のすべてをあなたに教えてくれたのは力強い

お父さんではありませんか。永遠の生命こそ真実の福音の原則ではないですか。お父さんはあなたを待っているのですよ。あなたの証は、小さい時からずっと持ち続けてきたものではありませんか。今は疑いの心を起こしているような時ではないはずです。」

こうした懐疑心と現実との葛藤の中で、私の心の中に響いてきたのが、空港での父の言葉であった。「ケント、すべての戒めを守りなさい。そうすれば幸福な生涯を送ることができる。」父の言葉には何の間違ひもなかった。この最後の言葉こそ、残りの人生を導く、靈感された勧告となったからである。父は、自分が教えた通りの生活をした。そしてその死後数週間たって初めて、私は、父がその生涯をかけて証してきたことの本当の意味がわかったのである。

父の死によって、経済的な問題が生じてきた。残り15カ月の任期のうち、11カ月の生活費は銀行に預金してあったが、後の4カ月分は母に何とかしてもらうしかなかった。また、伝道を終えてから大学へ戻る計画を立てていたが、その計画も今は夢と化してしまった。しかし、主は御自身が遣わされた宣教師をお見捨てになるはずがないのである。

それからしばらくして、私は母親から一通の手紙を受け取った。そこには、もうお金の心配をする必要はないと書かれていた。ある人が監督に、できれば私が任期を終えるまで援助をしたいと申し出てきたというのである。教会には親切な人がたくさんいて、このようなことも決して珍しいことではない。しかしこの場合は、様子が少し違っていた。その人は監督にこう言ってきたという。「私は皆さんの教会の会員ではありません。でも、あのホ

ーリス・ラブリーという方は本当に素晴らしい人で、私は心から彼を尊敬していました。それで御子息の任期中、お力になればと思うのです。」そしてこの人は15カ月間欠かさず、匿名で私の口座にお金を振り込んでくれたのである。

その人がだれなのか、今もってわからない。

父が示してくれた従順そのものの生活は、父の死後も私たちに祝福をもたらした。その死は私の伝道中に最も貴重な経験となったのである。こう言うとき奇妙に聞こえるかも知れないが、正直言って、父が生きてくれたら、と思うこともある。しかし、あの時以来、父の生き方を身をもって示すことこそ私の使命であると思うようになった。そして、間もなく、「すべての戒め」に従って生活することの大切さを知ることができた。その戒めがどんなに小さくささいなものに見えようとも、それに従った時、私は幸福感を味わうことができた。

主はこのように言われた。「そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130：20—21)

この聖句は真実である。自分の中に憂いや悲しみがあることに気づいた時、いつも思い知らされることは、それは自分が求められているすべてのことに従っていないからだということである。今でも、私の耳にあの励ましの言葉が聞こえる。「すべての戒めを守りなさい。そうすれば幸福な生涯を送ることができる。」



目的ある人生

管理監督会第一副監督

H・パーク・ピーターセン

皆さんはこれまでこのような考えを持ったことはないだろうか。「自分は大した人間ではない。自分が言うことや行なうことに関心を持ってくれる人はだれもない。自分は何か特別なものを人に与えることができるだろうか。人を助け、人々の生活を良い方向に変えるために自分には何ができるだろう。困っている人を助け、人々の生活を良い方向に変えるために、自分には本当に価値ある才能があるのだろうか。困っている人を助けるために自分にできることが何かあるだろうか。自分はそんな人間ではない。自分がしなくても、ほかの人が来て、もっと良い助けを与えてくれるはずだ。」

この世の中で最大のチャレンジのひとつは、自分がつまらない人間であり、何のとりえもない人間だという考えを打ち破ることである。皆さんは、天父が偉大な業をなす可能性を与えず、ただ思いつくままに御自分の子供たちをこの世に送られたなどと、一瞬たりとも考えたことはないだろうか。

実に私たちはそれぞれ違った特性、才能、個性、能力を持っている。ある人は他の人よりも多くの賜、あるいは少なくとも違った賜を持っているように思う。学校で成績の良い人もいれば、バスケットボールの上手な人もいる。背の高い人、低い人、体重の重い人、軽い人など様々である。また、ある人は他の人よりも美しくハンサムなことも事実である。そこで私たちはこうつぶやいたり、考えたり

する。「ジョン(またはアン)のようだったらな。みんなが驚くようなすばらしいことができるのに。そうしたらみんなぼく(私)のようになりたいと言うようになるだろうな。そうになったら、どんなにすばらしいだろう。」

皆さんに、ごく普通の教会員で普通のことをしながら、幾つかの点でその人を偉大にしたすばらしい実例を少し御紹介したいと思う。

宣教師の同僚

その宣教師は松葉づえについて証を述べていた。自転車の事故でひざを負傷したのである。彼は自分の同僚をどれほど愛しているか、また同僚からどのようにして愛の深さを学んだか他の宣教師たちに伝えたかったのである。2, 3週間前、彼は事故に遭い、医者から自転車に乗ることを禁じられ、足を固定しておくようにと言われた。伝道部長は同僚が伝道を続けられるように、彼を転任させることに決めた。自転車にも乗れないで、一体どんな働きができるだろうか。しかし、同僚は彼を転任させないで欲しいと伝道部長に懇願した。ふたりの伝道はとてもうまくいっていたし、同僚は足の不自由な彼を愛していた。必ずよい方法が見つかると思っていた。「どうか私たちにやらせて下さい」と同僚は伝道部長に頼んだ。そこで伝道部長は承諾し、やらせてみることにした。

松葉づえをついたその長老はその後、どのようにしてその問題を解決したかを語って

れた。同僚はふたりの自転車を手でつなぎ、2週間、彼の自転車を引っ張って町中を伝道して回ったのである。彼は、人を愛するということがどんなことか初めて知ったと語っている。

恐らく皆さんも愛や献身、勤勉など、他の人々の生活に欠けているものを何かに与えることができるはずである。是非それを行なってみていただきたい。分かち与えていただきたい。他の人にとってそれがどんなに役立つかわからないからである。

折れた首

ある西部の町で、ひとりの少年が18歳になって伝道に出る準備をしていた。彼はその日を心待ちにしていた。彼の両親やガールフレンドも同じであった。準備はすっかり整っていた。

そんなある晩、彼は町の水泳プールで、友人とダイビングをしていた。2度目に水中に飛び込んだその瞬間、彼は飛び込む角度を間違えたことを知り、慌てた。しかし彼は頭から水中に突っ込み、鈍い音を立ててプールの底にぶつかってしまった。彼はたちまち気を失った。そこで人々は彼を注意深くプールサイドに引き上げ、急いで病院にかつぎ込んだ。そして彼は何週間か治療を受けたが、ついに首から下はまひしたまま一生治らないと宣告された。指もつま先も、腕も足も動かすことができない。これから一生ベットに横たわったままである。彼の体はまったく役に立たないものとなり、何か特別なことが起こらない限り、精神的にも死んでも同然であった。

ところが、賢明な監督がこのことを聞きつけた。彼は少年の両親や医者と話し合い、そして少年にひとつの責任を与えた。信じられないような、不可能とも思われる責任であった。その責任というのは、彼のワード部出身のすべての宣教師と軍人に、毎月手紙を書くことであった。監督は何の考えもなしにこの責任を与えたのだろうか。それとも靈感を受

けたのだろうか。手も指も使えない少年が一体どうして手紙を書けるのだろうか。そのような場合、足の指を使う人もいるが、彼はその足さえも動かせない。しかし、その少年と両親は監督の言葉を信じてそれを実行し始めた。何日も、何週間も、そして何カ月も努力と失望の日が続いた。その結果、やっと努力の実が結び始めた。

彼は歯で鉛筆をくわえ、頭を動かしながら、点やまるを書くことをまず覚えた。そして次第に言葉や文章が書けるようになり、とうとう1ページに及ぶ文を書き上げるまでになったのである。彼は来る日も来る日も手紙を書き続けた。

こうして彼は、20年以上も美しい手紙を書き続けた。そして何千人という人々を励ましたのである。それだけではなかった。彼自身の精神までもすばらしく高められたのである。どんなに辛くむずかしいことであろうと、指導者の勧告に従うよう努力するのはそれだけの価値があることではないだろうか。少なくとも彼はそのように考えている。私もそう思っている。

次代を担う高貴な世代

愛する友人の皆さん、皆さんは高貴な世代である。皆さんは特別な使命を果たすためにこの時代に地上に来るように、長年天にとどめおかれた。ほんの何人かではなく、皆さん方全員がそうである。皆さん一人一人には、他の人にはできないこと、皆さんにしかできないものがある。しかしそのためによく準備しなければ、それを達成することはできない。皆さんの使命は皆さんに独自の特別なものである。ほかの人にそれを譲ることのないようにしていただきたい。ほかの人はあなたほどそれをよく達成することはできないからである。もし神に頼ってそれを行なうならば、天父は生涯皆さんとともにいて、靈感を与え、この世におけるあなたの特別な使命を教えて下さるであろう。私はこのことを証する。



模範の力

七十人第一定員会会員
チャールズ・A・ディディエ

夜も大分更けた頃、突然、ドアのベルが鳴った。その晩は来客の予定もなく、だれなのかまったく検討がつかなかった。ドアを開けてみると驚いたことに、近所で伝道をしているふたりの宣教師がそこに立っていた。

ふたりの長老は、私の息子たちをお願いしたいことがあるので呼んでもらえないかと言った。しかし、それはできなかった。息子たちは14歳と15歳で、もうすでに寝ていたからである。ふたりの宣教師は互いに顔を見合わせた。すると先輩長老の方が勇気をふりしほ





った面持ちで、息子たちに学校で行儀よくしてくれるよう頼んで欲しいと言った。彼らは今、息子と同じ学校の生徒に福音を教えているということである。宣教師たちはその若い求道者に私の息子たちが教会員であり、他の人とどこが違うのか見てもらうというのである。もし息子たちが良い振舞いをしていなかったら何と恐ろしいことだろう。私はそのことを息子たちに伝え、よく言い聞かせておくと約束した。

長老たちは安心した様子で帰って行った。その時、ドアを閉めようとしていると、私の心にひとつの聖句が浮かんできた。その聖句は、私がこれまで宣教師との集会でたびたび引用してきたものである。「汝らはわれに由りてかれらに模範をあらわすように……さらばわれは汝らをわが手に使い多くの人を救はん。」(アルマ17:11)

私自身そのような宣教師と知り合ってもう

30年以上になる。私の人生にとって彼らは何とすばらしい模範となっていることだろう。私がはじめて宣教師に会ったのは、確か16歳の時であった。夏の間中、私たちは母親と一緒に窓辺に座り、家の前の丘を登って来る隣人や友人にあいさつをするのが常であった。その日、自転車を押しながら丘を登ってくるふたりの若者が目に入った。彼らはどことなく普通の若者とは違っていた。暑い最中にもかかわらず、白いワイシャツにネクタイをしめ、スーツをきちんと着込んでいた。私たちは外見から彼らをアメリカ人だと思った。私たちは非常に興味をそそられた。いったい彼らはこの町で何をしているのだろう。

翌日、彼らは我が家のドアをたたいた。私たち4人は好奇心からどっと玄関にかけ出した。私たちは彼らを招き入れ、その時初めて彼らが何者で、何をしているかを知ったのである。それが永遠の物語の始まりである。彼らの笑顔、愛、奉仕の心、戒めに対する従順さ、そして主に対する愛は、私たちの心を強く動かした。私たちは彼らの訪問と、彼らが持ってくる霊性を心待ちにするようになった。彼らはインディアンやモルモン経のことを教えてくれた。そしてそのほかにも、芸術やスポーツでの才能を示してくれた。こうして彼らとの永遠の交流が始まったのである。

あれから30年の歳月が流れた。あのすばらしい若者たちの模範によって、私の人生、また私の人生観は大きく変わった。私は回復されたイエス・キリストの福音に対する証を得た。そして生ける神の戒めに従って生活するようになった。私は喜んで現在の予言者に従い、神から来る予言者の言葉を知るように努めている。現在私の責任は、かつてイエス・キリスト御自身によってつながれた永遠の鎖がはずれないように見守ることである。「以上

はわが福音なり。わが教会に於てなすべきことは、汝らすでによく知れり。すなわち汝らが見たるわが行ないを汝らもせよ。これらのことは汝らも行なうべきことなればなり。」
(Ⅲニ一ファイ27：21)

教会の若人であるあなた方の影響、あなた方の模範は、人々を改宗させる要因にも、あるいは逆にメッセージに興味を失わせる要因にもなり得るのである。したがって、外見や思い、言葉、行動のすべてに気を配っていただきたいと思う。

今こそ伝道への召しに備える時である。それも今すぐに始めた方がよい。若ければ若いほど良い習慣を伸ばすのはやさしい。ウィリアム・ジェームズはこう言っている。「行ないは繰り返すことによって習慣となり、習慣は集まって人格が形成される。この人格が人の行く末を決めるのである」と。決定されるのは私たちの行く末ばかりではない。私たちの隣人や友人の行く末までも決まるのである。

伝道活動を助けるためにふたりの息子に何ができるかを私はよく知っている。そうして考えてみると、私の息子たちとほとんど同じ年齢のジョセフ・スミスにとっても、その実によって認められるように模範を示すことができる。確かに、ジョセフ・スミスは偉大な信仰の模範であった。今日この教会が存在するのは、その信仰の産物である。

模範の力は人を行動へと駆り立てる強力な力である。その模範の力を知ることによって、私たちは自分の中にある、人を改宗へと導く力に気づき、それを神聖な方法で用いることができるようになるのである。キリストは私たちにこう言われた。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ4：19)

危険に備えて 今決心しておきなさい

アーチー・M・ブラッガー

私が韓国に行くよう命令を受けた時、ベトナムではテト(旧正月)攻撃の真最中であつた。私は合衆国陸軍軍医と国連軍の職業軍人代表になることになっていた。新しい任務に就いて1カ月の頃、私が毎日接する軍人たちの中で一番若いと思われるひとりの看護兵が同じ管轄区域にやってきた。

驚いたことに、彼はいつか私と個人的に会いたいと言ってきた。そして彼はこう言ったのである。「大佐、私の知る限り、この部隊には『まっすぐな矢』はわずか6本しかありませんよ。〔『まっすぐな矢』とは軍隊用語で、服務中純潔を守り通す人を意味する〕私はあなたをだれよりも尊敬しています。私は清い状態で妻子のもとに帰りたいと心から望んでいるのですが、その勇気と精神力を持ち続けられそうにありません。あなたはまっすぐな矢を守り通すつもりですか。どのようにすればいいのですか。」

私は唐突な彼の言葉に一瞬たじろいだが、彼にどう答えるべきかわかっていた。これまでもこのような場に直面したことがあり、極東に来るかなり前から自分なりに答えを出していたからである。私は彼に、自分は韓国に

いる時だけでなく永遠にわたってまっすぐな矢を守り通すつもりであると答えた。また私は、誘惑されそうな状態に自分を置いたことがないので、自分が誘惑に対してどれほどの力があるのかわからないと答えた。さらに、自分は酒を飲んで意識をまひさせるようなことはしないと付け加えた。

それから勤務外の時間に行なわれる教会の活動について証を述べ、それらを通して健全な思いが養われることを説明した。

話をしていくうちに、この若者が妻を深く愛していることが私にも伝わってきた。そこで私は、彼が貞操を失えば、そのことは妻への手紙に何らかの形で表われ、ふたりの間に大きな溝を作ることになるだろうと話した。彼もそのような事態になりかねないことを知っていた。現に、これまでそのような友達を何人も見てきたのである。そこで私たちは約束を取り交わした。私が純潔を守っている限り彼もそうするという約束である。私たちはこの運動に加わるようほかの人にも働きかけたが、だれひとり賛同する者はいなかった。

それから2カ月ほどたった頃、彼が私の部屋にやって来た。「大佐、この部隊のまっすぐな矢は4本になってしまいましたよ。」それから間もなく、彼は3本になったことを告げに来た。韓国での務めも残すところあと4カ月というある日、彼がやって来て言った。「ついにあなたとぼくだけになりました。」私が彼に守り続ける意志があるかどうか尋ねると、彼は「絶対に守ります」と言い切った。

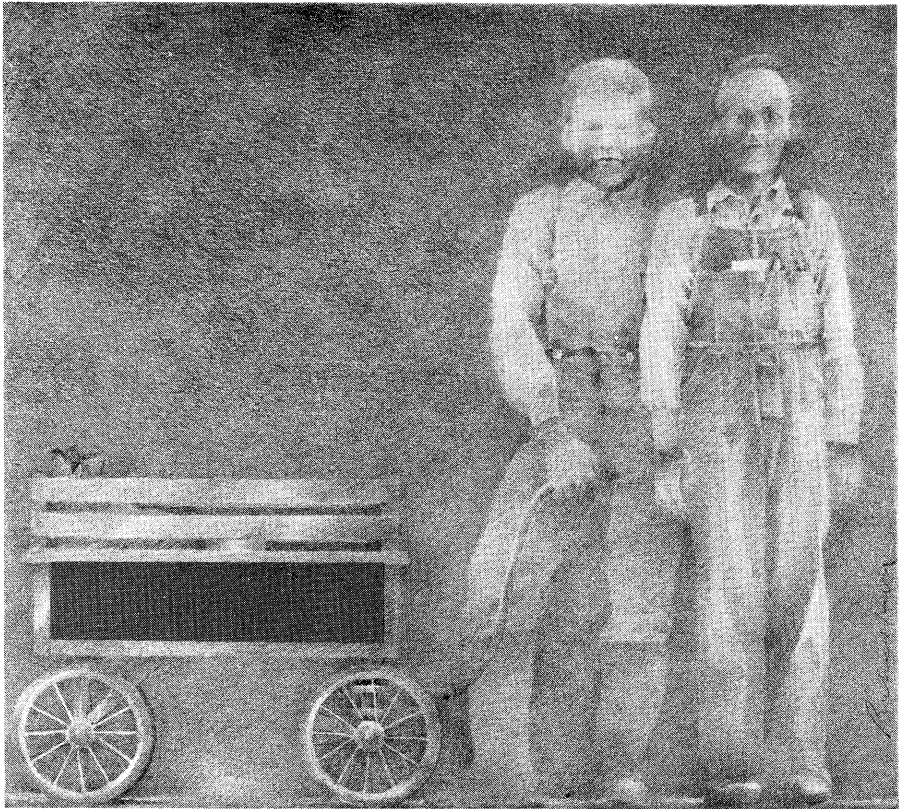
私が合衆国に帰る時が来た。しかし彼が帰るまでにはもう1カ月あった。そこで私たちは何度となく福音について語り合い、固い友情の絆を結んだ。私が韓国を立つ日、私たち

ふたりは涙の別れをした。彼は残り1カ月間どのようなことがあっても、これまで守り続けてきた幸福を危険にさらすようなことはしないと私に約束してくれた。そしてこれまで以上に目標達成に努めたのである。

この若者は末日聖徒ではなかったが、人生に欠かせない教訓を知っていた。何かを達成しようと思うなら、その目標を立てることが必要であることを知ったのである。心身とも清い状態で妻子のもとに帰るには、かなりの努力が要求されるが、彼は努力を惜しまなかった。その上、自分の目標を謙遜に他の人に話すことによって弱気になった時の心の支えとしたのであった。

救い主は、愛する者たちの間にこれと同じような関係を築きたいと思っておられる。主は私たちに主の戒めを土台とした高い目標を掲げるように望んでおられる。達成したいことの計画を立て、祈りを通して絶えずその目標を検討してゆく時に、私たちは主とともに働くことができる。ほかにも大勢の軍人たちが、まっすぐでいようと思ったことだろう。しかし、それができたのはこの若者と私のふたりだけであった。なぜだろう。弱さに屈してしまっただからである。目標を達成しようと思うなら、前もって達成したいことの計画を立てなければならない。

誘惑に遭ってから決心するのでは遅すぎる。理想が危険にさらされないうちに決心しておかなければならない。そうすれば誘惑を前にしても、「これは危険な状態か」と自問するだけでよい。もし危険な状態に陥れるものであれば、どうすればよいかはすでに決まっているのである。



荷車にいっぱいの捧げ物

クリス・ジェンセン

20世紀初期の執事はどのようであっただろうか。ある教会員が語るこの話は、現代のアロン神権者にとって興味ある教訓を含んでいる。

私は執事に聖任されて10分も経たないうちに教会の責任を与えられました。

父は監督と副監督、それに執事アドバイザーの助けを得て、私を執事に聖任しました。

聖任が終わると、兄弟たちが一人一人私に祝いの言葉を述べてくれ、またいろいろと助言をしてくれました。ところが執事アドバイザーは、何も言わずにただこう言ったのです。

「それじゃあ、さっそく執事の仕事を願います。今週の土曜日、フレッド・エドワーズ兄弟と一緒に断食の捧げ物を集めて下さい。朝10時にピアソン兄弟の家に集合するようになっています。遊んだりせずきちんと働けば、昼には終わるはずですよ。」

それから私たちは一緒に廊下に出て執事のクラスに行きました。当時、神権会は月曜日の夜に行なわれていました。集会後、私は喜び勇んで帰宅し、母にその責任のことを話しました。

母はすぐに準備に取りかかりました。「洋服箱に入っているワイシャツを着ましょうね。土曜日までに洗ってアイロンをかけておきますからね。そうそう、先週買った新しいオーバーオールがちょうどいいわ。雨が降ったりしなければ、日曜日に履く靴を履くといいわね。」

月曜日から土曜日までがずいぶん長く感じられました。期待と不安が相半ばする気持ちでした。教会員に断食の捧げ物をお願いする時、物乞いのように見られなければいいなと思ったものでした。

断食の捧げ物（と什分の一）は、当時お金よりも物品で納められることが多かったのです。つまり、人々は卵やバター、小麦粉、パン、野菜など、教会員が自分の手をかけて作

った物を納めたのでした。そうした物品は監督の倉庫という中央倉庫に集められ、困窮者に支給されました。

家からピアソン家までは通りが3つしか離れておらず、10時までに行けばよいということで時間はたっぷりあったのですが、母は私を7時に起こしました。いつもは遅いシャワーをまず一番に浴びました。母は私の靴を磨いていました。しかし、その靴も新品のオーバーオールも、出かける直前まで手渡ししてはくれませんでした。とにかく私はのりのきいたワイシャツに、真新しいオーバーオールを着け、日曜日用のきれいな靴を履き、さあこれで出かけられると思って玄関に立ちました。ところが母からネクタイを忘れていますよ、と注意されました。

それは、軍隊の検閲よりも厳しいものでした。耳をつまんで耳の中から裏側まで細かく調べられ、髪は何度もとがされました。さらに突っ立ったまま無理やり口をあけて、口の中まで調べられる仕末で、母は出かける時も私にくどくどと注意を与えました。「オーバーオールに小麦粉がつかないように気をつけてね。いつも礼儀正しくするんですよ。捧げ物をお願いする時は『どうぞ、お願いします』と言い、いただいたら『ありがとうございませう』と言うことを忘れないようにね。家の中に招かれたら帽子をちゃんと取って、髪の毛が乱れていないかどうか確かめてみるんですよ。それからシュルツ姉妹がお家にいらしたら、何かお手伝いできることはないかお聞きしてね。そして12時までには帰ってくるようにしてね。きょうは家の仕事もたくさんありますからね。」

ピアソン兄弟の家に着くと、フレッドはも

う捧げ物を運ぶ「急行便」を引いてきていました。ピアソン兄弟は私たちを中に呼んで、フレッドに線を引いたノートと小麦粉の袋、それからとても大きなブリキのます枡を渡しました。

「これが秤ばかりだよ。」ピアソン兄弟が私たちに教えてくれました。「ほとんどの教会員は捧げ物に小麦粉をくれると思うが、これには小麦粉がちょうど2ポンド入るようになっている。だから、小麦粉をこの枡に入れてくれたら、それを受け取ってこの袋に入れるように。そ

れからノートに小麦粉2ポンドと書き留めて。そのほかに、例えば卵やバターだったらその量も書いておくようにして下さい。行った家が留守であっても、訪れた家の名前は全部書いて下さい。きょう不在であっても、来月は2カ月分下さるかもしれないからね。」

フレッドはノートと鉛筆をワイシャツのポケットにしまい、空袋を荷車に載せました。フレッドは4カ月前に執事になり、私より先輩ですから、荷車を引くのは私の仕事です。

私はのりのきいたワイシャツに、真新しいオーバーオールを着け、日曜日用のきれいな靴を履き、さあこれで出かけられると思って玄関に立ちました。ところが母からネクタイを忘れていますよ、と注意されました。

それは、軍隊の検閲よりも厳しいものでした。

最初は、ピアソン兄弟の家から通りひとつ越えたジョン・アンダーソン兄弟の家でした。フレッドが門を開け、私が荷車を玄関前まで引いて行きました。アンダーソン姉妹がノックに答えて出てきました。

「まあまあ、ようこそ、新しい執事さんね。」アンダーソン姉妹はフレッドから枡を受け取りながら言いました。「クリス、皆さんはお元気？ フレッド、あなたのご家族もお変わりなくて？」

私たちが返事をする前に彼女は家の中へ入

って、枡に小麦粉を入れて戻ってきました。

フレッドがノートと鉛筆を取り出し、メモしました。「ジョン・アンダーソン家、小麦粉2ポンド。」

通りに出ると、フレッドが、「どうすればよいかわかっただろう」と言って、私にノートと鉛筆を手渡しました。「後輩は荷車を引くのと記録するのが仕事なんだよ。」

「でも、ぼく、君ほど字が上手じゃないよ。」するとフレッドは、冷たく答えました。

「じゃあ、読めるようにゆっくり注意して

書けばいいだろう。とにかく、名前だけは正しく書いてね。」

次は未亡人のメアリー・オルセン家でした。彼女は私たちを中に入れると居間にあるとおきの椅子にすわるように言いました。そして、本棚からふたりの男性の写真を持ってきました。

「これが私の息子よ。ふたり共結婚して今は遠くに住んでいるけれど、彼らも昔はあなたがたと同じ執事だったわ。毎月、断食の捧げ物を集めて回っていたの。ふたりは私の誇りだったわ。」

オルセン姉妹は台所に行き、杵に小麦粉をたっぷり入れて戻ってきました。それから、私たちにロールパンを半分ずつくれました。

「外で召し上がって。じゅうたんにパンくずが散らからないようにね。」

彼女は杵を手を持って、私たちの後から荷車のところまできて、自分で袋に入れました。それから「来月またね。待ってますよ」と言って家の中に入っていきました。

私は垣根のところにある郵便箱を台にしてノートを広げ、できるだけ丁寧に大きな字で「メアリー・オルセン姉妹、小麦粉2ポンド」と書きました。

それから隣の家に行ってノックをしました。カール・クリステンセン家でした。この家の女の子、ルビーは私と同級生でした。その彼女が玄関に出てきました。

彼女はドアのすき間から外をうかがうように見ると、「お母さんはいません」と言って、私たちの返す言葉もないうちにボタンと戸を閉めてしまいました。

「クリステンセン姉妹は不在と書いてよ。きつと来月は小麦粉2カップくれると思うよ。」フ

レッドはそう言うと、急に「通りの向こうのシンプソンさんのところに行ってみよう」と言い出しました。

「でも、教会員じゃないよ」と私は答えました。

「シンプソンさん、いいおじいさんなんだ。話がしたいんだ。それにね、いつも何かくれるんだよ。」

私はシンプソンさんと話をしたことがありませんでした。実は少し怖かったのです。高い柳の木が柵のように家を取り囲んでいて、中は何も見えないのです。シンプソンさんも通りですれ違いざまに何回かちらっと見ただけでした。しかも大声で吠える犬を飼っているのです。

フレッドが戸をノックすると、しわがれた声で「どうぞ、お入り」という声が返ってきました。

フレッドが戸を開け、私も中に入りました。すると部屋の奥の、油布を掛けたテーブルに肘をかけてシンプソンさんが座っていました。そばに非常に大きくて真っ黒な犬がいました。犬がうなって起き上がりかけると、シンプソンさんが「伏せ、ダイアロブ！」と大声で言いました。(ダイアロブというのが悪魔という意味だと知ったのは、それから何年もあとのことでした。確かにその犬にぴったりの名前でした)

「友だちかね。」シンプソンさんが尋ねました。

「クリスです。断食の捧げ物を一緒に集めているんです。」

「こんにちは。」私は椅子の端にちょこっと腰かけたままであいさつをしました。フレッドは大きな安楽椅子にどっかりとすわってい

ました。

私は天井を眺めたり、古びた床のじゅうたんを見たり、部屋中を見回し、少しも落ち着きませんでした。するとテーブルの向こうの壁に、見たこともない大きな鉄砲が掛かっていました。シンプソンさんは私の顔を見て言いました。

「そりゃ、口装銃じゃよ。南北戦争で使ったものじゃ。」

南北戦争！ 100年以上も昔のこのように

フレッドは4カ月前に執事になり、私より先輩ですから、荷車を引くのは私の仕事です。

思っていたのですが、実際は50年そこそこしか経っていませんでした。私は銃に見られて、その日の仕事を忘れかけていました。しかし、思い出したようにフレッドに言いました。「捧げ物を集めてしまった方がいいんじゃない。」

「いつでもまたおいで。」玄関を出る私たちにシンプソンさんが言いました。(事実その後、私は何度か彼のところに遊びに行きました)

「そうだ、これをアルフにあげてくれんな。」シンプソンさんはそう言ってポケットに

手をつっ込み、25セントをくれました。「書かなくてもいい。わしや、お宅の教会員じゃないのでな。」

「アルフってだれ？」私は通りを渡りながらフレッドに聞きました。

「ピアソン兄弟だよ。彼の名前はアルフレッドだろう。」

続いて私たちはエド・ピーターソン家の門のところに来ました。ノックして用向きを伝えると、ピーターソン姉妹がでこぼこした布袋を渡してくれました。

「卵が12個入っています。困ってる方には小麦粉よりいいでしょう。落とさないように気をつけてね。」

次はジョン・ジェコブセン兄弟の家です。一見中年のように見えますが、つい最近結婚したばかりで、20代の前半だろうと思います。奥さんがこれまで見たこともないようなきれいな服を着て出てきました。そして布袋を渡して言いました。

「焼きたてのパンなの。」

袋を通してパンの温かさが伝わってきて、焼きたてのおいしそうな匂いもしました。私は日曜日の聖餐会にちょうどいいなと思いました。

次はジョージ・ピーターソン兄弟とジョーゲン・オルセン兄弟でした。どちらも小麦粉をくれました。

最後はセナ・シュルツ姉妹の家でした。母から何か手伝えることはないか聞くように言われていたのですが、私が何か言う前に彼女の方から話し出しました。「おふたりとも、お入りなさい。あげるものがあるんだけど、その前にちょっとお願いしていいかしら。」

「はい、どうぞ。何ですか。」

「小羊が小屋から逃げ出して、私ひとりじゃとても連れ戻せないの。それでね、フレッド、あなたは北東の端、そしてクリス、あなたは反対側に行ってほしいの。三方から追いつめれば小屋に入ると思うの。」

フレッドと私は両手を大きく広げて追いつめるようにし、声をあげました。シュルツ姉妹はエプロンをぱたぱたいわせ、「シー、シー」と追いつていました。

小羊は私たちが遊んでいるとでも思ったのでしょうか。庭中をあっちこっち駆け回り、時折、尾を弓なりに曲げて空高く飛び上がったりするのです。そのようにして小羊を小屋に追いつ込むまで、30分はかかったと思います。それからシュルツ姉妹は板と金づちを持ってきたので、フレッドが小屋の破れ目に板を打ちつけました。

「ほんとうにどうもありがとう。」シュルツ姉妹はいかにも助かったという感じで言いました。「じゃ、上等の焼きつけを切ってくれたら、お駄賃にワッフルを焼いてあげますよ。」

私たちはとにかくお礼を述べ、仕事はまだ残っていますのでまずそれを片付けてから、お手伝いに来ますと言って帰ろうとしました。

「ああ、ちょっと待ってよ、忘れてたわ。」彼女はそう言ってエプロンのポケットを探り、四つ折りにしてひもを二重にかけた封筒を取り出しました。表に、「セナ・シュルツより、断食の捧げ物10セント」と書いてありました。

「シュルツ姉妹のところはいつも何か仕事があるんだよ。」ピアソン家に帰る途中、フレッドが言いました。

ピアソン兄弟は記録したノートを調べて言いました。「さてと、小麦粉8ポンド、卵12個、焼きたてのパンが1個に、現金35セント。上

出来だよ。困っている人たちは君たちの仕事を心から感謝して下さると思うよ。」

彼は隣室に声をかけました。「母さん、頑張った執事たちにごほうびはないかね。」

ピアソン姉妹がすぐにクッキーとミルクの入った水差しとコップ2個を持ってきました。彼女はそれをテーブルに置くと、どうぞと私たちに勧めました。

それから、私はフレッドに別れを告げて、急いで家に帰りました。

「どうだった？」私が入ってドアを閉めると、すぐに母から尋ねられました。

「上出来さ。」私は答えました。

でも母はそれだけでは満足しませんでした。私はその日の出来事の一つ一つ母に話しました。特にシュルツ姉妹の家の小羊を話すると、母はとても喜びました。(その夜、父が畑仕事から帰ってきて、私は再び、同じこの話をさせられたのでした。)突然、母がはっと気が付いたように言いました。

「そうそうワイシャツは今脱いでおきなさい。あまり汚れていないようだったら、あした聖餐のパスをする時に着られますからね。靴のよごれも落としておきなさい。それから古い洋服に着替えてね。わかっているだろうけど、まだ自分の仕事が残ってたはずよ。」

荷車でこうして断食の捧げ物を集めた最初の日が過ぎました。

それは62年も前のことです。





東京神殿長に

ドウエイン・N・アンダーセン兄弟 召される

今秋の神殿完成を間近に控えた、教会18番目の東京神殿の神殿長にドウエイン・N・アンダーセン兄弟が召されました。アンダーセン兄弟は、元北部極東伝道部の伝道部長として日本で伝道された経験もあり、現在はブリガム・ヤング大学の助教授兼生涯教育顧問であり、同時にBYU第1ステーク部の祝福師の責任にあります。また、これまでハワイ神殿の顧問、チャーチ・カレッジ第3ワード部の監督、ワルナット・クリーク・カリフォルニアステーク部のコンコードワード部の監督も歴任されました。

BYUハワイ・キャンパスでは外国人留学生のアドバイザーを7年間務め、特にアジアからの留学生に注がれた愛情あふれる指導は、留学生たちに深い感銘を

与えていました。

アンダーセン姉妹はこれまで初等協会、若い女性、日曜学校、扶助協会の役員教師、ハワイ神殿のガイドなどの責任を果たしています。

今秋、神殿のオープンハウスが9月15日から10月18日までの期間、日曜日を除いて行なわれる予定です。

最初の献堂式は10月27日、定礎式に引き続いて午後3時から行なわれ、そのほか神殿推薦状保有者のために10月28、29日の両日、東京ステークセンターで、午前9時30分、午後1時30分、4時30分からそれぞれ同じく神殿献堂式の特別セッションが開かれます。

神殿の儀式は11月4日から開始される予定です。

地域大会，アジアの各地で開かれる

今年はフィリピン，香港，台湾，韓国，日本（2カ所），合計6カ所で地域大会が開催される予定です。

この一連の大会は，10月18日から11月1日にかけて各地で開かれます。

まず10月18，19日の両日，フィリピンのマニラで地域大会が開かれます。フィリピン在住の全会員が出席します。大会はアレネタ・コロシウムで，10月18日（土）女性の部会（午後3時～5時），神権部会（午後7時～9時），翌10月19日（日）には一般大会が2回（午前10時～正午と午後2時～4時）開かれます。

香港大会は10月20，21日の両日，クイーン・エリザベス・スタジアムで開かれます。各部会は，女性の部会（10月20日午後7時～9時），神権部会（10月20日午後7時～9時），一般大会（10月21日午後4時～6時と7時～9時）が予定されています。香港の全会員が出席します。

台湾大会は10月22，23日，台北の国父紀念館で開かれます。各部会は女性の部会（10月22日午後7時～9時），神権部会（10月22日午後7時～9時），一般大会（10月23日午後4時～6時と7時～9時）が予定されています。台湾の全会員が出席します。

韓国大会は10月25，26日，京城のセイジョン文化センターで開かれます。各部会は女性の部会（10月25日午後3時～5時），神権部会

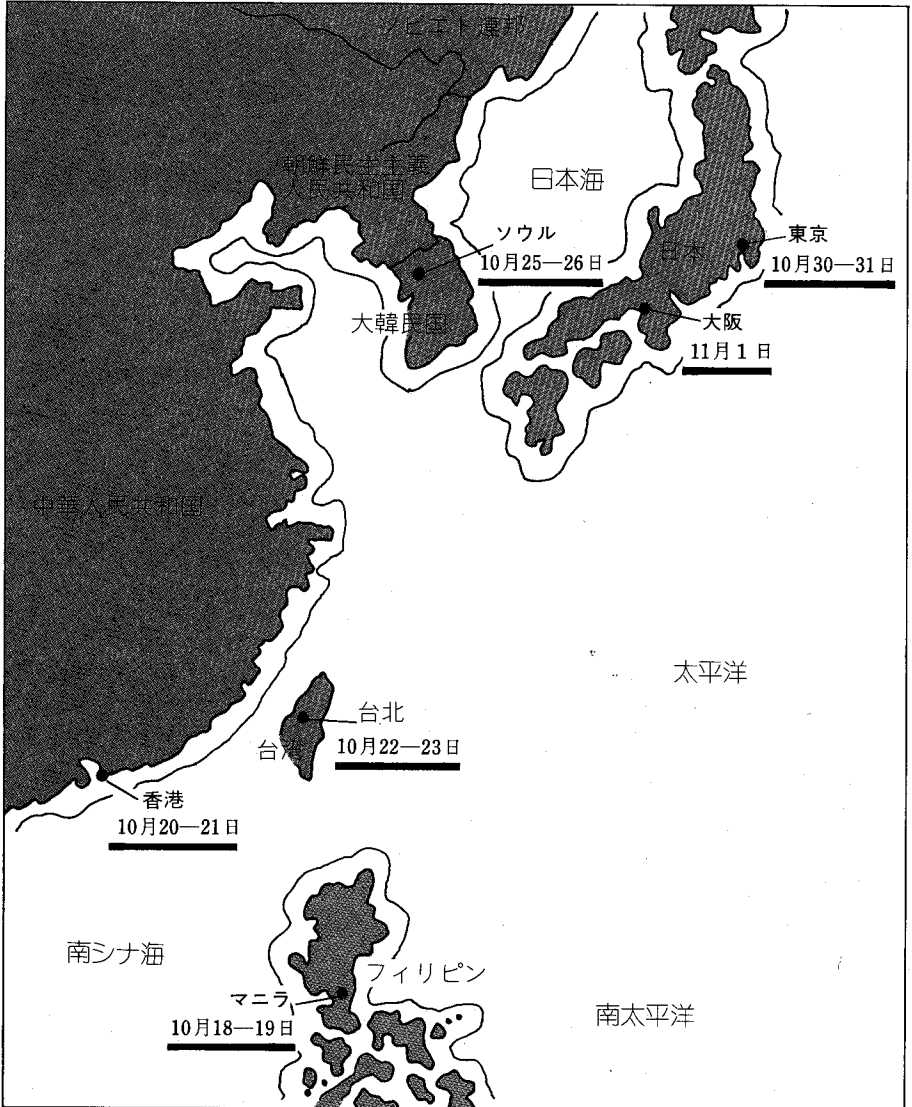
（10月25日午後7時～9時），一般大会（午前10時～正午と午後2時～4時）が予定されています。韓国在住の全会員が出席します。

日本の東京大会は，10月30，31日の両日，日本武道館で開かれます。各部会は，女性の部会（10月30日〔木〕午後3時～5時），神権部会（10月30日〔木〕午後7時～9時），一般大会（10月31日〔金〕午前10時～正午，午後2時～4時）が予定されています。札幌と東京地区の会員が出席します。また，伝道部としては，日本札幌伝道部，日本仙台伝道部，日本東京北伝道部，日本東京南伝道部が含まれます。

大阪大会は11月1日，松下電器体育館で開かれます。各部会は神権部会（午前8時～10時），女性の部会（午前11時～午後1時），一般大会（午後3時～5時）が予定されています。福岡，沖縄，大阪，名古屋地区の会員が出席します。また伝道部としては，日本福岡伝道部，日本神戸伝道部，日本名古屋伝道部，日本岡山伝道部と新しく誕生した日本大阪伝道部が含まれます。

神権部会は12歳以上の全男性，女性の部会は12歳以上の全女性のための集会です。大会はすべて大管長会の指示の下に催され，大管長会ならびに他の教会幹部が出席する予定です。

アジアの 地域大会 スケジュール



新たに7つの神殿の 建設計画、承認される

大管長会は、新たに7つの神殿の建設計画を承認したことを発表しました。

その建設地は以下の通りです。合衆国ジョージア州アトランタ、アルゼンチンのブエノスアイレス、オーストラリアのシドニー、チリのサンチアゴ、タヒチのバペッテ、トンガのヌクアロファ、西サモアのアピア。

以前に大管長会よりアメリカ領サモアのバゴバゴに神殿を建設することが発表されていましたが、このサモアの神殿建設予定地がバゴバゴからアピアに変更されました。以前の計画では、バゴバゴが南太平洋の空の交通の主要拠点であって、他の太平洋諸島の教会員に都合がよいということでした。しかしこの度、太平洋諸島の他の地域にも神殿が建設されることになったため、特にサモアの聖徒たちの必要に十分応えられるようにということでこの変更が行われたものです。

現在運営されている神殿は17で、ほかに4つの神殿が建設中です。大管長会は次のように述べています。「新しい神殿の建設計画を承認できて、心から喜んでます。これらの神殿は、増加の一途をたどる忠実な末日聖徒に神殿の儀式的祝福をもたらすことでしょう。

神殿に参入する人々に求められる道徳的に高い標準を保ち続ける時、その末日聖徒の結婚生活や家族、個人の生活が堅固なものとなることを私たちは知っています。夫婦は和合一致のある生活を営み、子供たちは幸せにな

り、全員の生活が豊かになることでしょう。

家族はこの世の生活における喜びの最大の源です。と同時に、永遠の世界における喜びの源でもあるのです。」

新しい神殿は規模の面ではこれまでの神殿ほど大きくありませんが、必要な儀式をすべて行なえるように設備は十分に整えられています。大管長会はさらにこう付け加えています。

「私たちの目的は、教会員が居住する地域の近くに神殿を建設することです。これらの神殿は教会員に十分満足のゆく建物で、しかも費用の面で教会員に過度の負担をかけないように考慮されています。

これらの新しい神殿の特異性、そして壮麗さは必ずや神殿の神聖な目的を達成してくれるはずですよ。」

建設は、神殿用地の選択、最終計画の完成、地元負担金の確保などを待って進められる予定です。

新しい神殿地区の開設に伴い、神殿参入と糸図探求の責任がこれまで以上に教会の指導者と教会員の双肩に課せられることとなります。

神殿地区内の教会員は、神殿の建設に貢献する機会が与えられます。しかしこれらの神殿は教会の慣例通り、地元負担金を完納するまで献堂は行なわれませんし、使用することもできません。

タイプ1



タイプ2



タイプ3



上は新しく建設される神殿の原型となる3つの型の神殿スケッチ図
(教会建築技師エミール・B・フェッツァー作)

日本教会歴史編纂委員会からの お 願 い

日本教会歴史編纂委員会は、本年はじめに組織され、すでに活動に入っております。

来年、日本での伝道開始80周年を迎えるにあたり、今年はその準備段階として資料の収集と整理を中心に作業を進めています。

皆さんの中に、日本の教会歴史に関わる古い文書（個人の記録、系図、日記）やテープ、フィルム、写真等をお持ちの方がいましたら是非それらの提供をお願いいたします。

私たち、日本の聖徒は今、東京神殿の完成や地域大会の開催等で祝福された時を迎えようとしています。しかしながら、これらの祝福は私たちの力だけでなく、過去の多くの人人の献身的な犠牲によってもたらされたことを忘れてはなりません。

このようなことを考えると、私たちは今こそ教会歴史の編纂をもって報いるべきふさわ

しい時ではないかと思えます。

キンボール大管長のメッセージにありますように、記録を後世に伝えること、これほど尊い業はありません。

これらの主旨を皆さんがよく理解されて一致協力していただけたら幸いに存じます。

なお、資料の送付先は以下の通りです。

〒104 東京都港区南麻布5-10-30

末日聖徒イエス・キリスト教会

日本教会歴史編纂委員会

どうぞよろしく願いいたします。

委員長

田中健治

公 告

会員その他利害関係人各位

規則第18条の定める手続を経て、下記の通り教会用地を買収しましたので宗教法人第22条の規定によって公告します。

昭和55年3月7日

宗教法人 末日聖徒イエス・キリスト教会 代表役員、菊地良彦

ワード部/支部	所在地	面積(土地)	(建物)
盛岡支部	盛岡市高松一丁目159番4	702.90㎡	281.51㎡
加古川支部	加古川市加古川本町字中田108番5	574.67㎡	537.45㎡
大和ワード部	大和市鶴間一丁目3054番6	466.10㎡	549.10㎡
堺第二ワード部	堺市向陵西町四丁目211番	380.00㎡	1025.91㎡

